

令和 2 年度防災特別研究プロジェクト

# 乳幼児をもつ保護者の複合災害に対する 防災意識と備えに関する研究

## 報告書



令和 3 年 3 月

徳島大学大学院医歯薬学研究部

地域看護学分野

## 令和 2 年度防災特別研究プロジェクト

乳幼児をもつ保護者の複合災害に対する防災意識と備えに関する研究

### 研究組織

#### 研究者

岡久 玲子	徳島大学大学院医歯薬学研究部	地域看護学分野
松下 恭子	徳島大学大学院医歯薬学研究部	地域看護学分野
多田美由貴	徳島大学大学院医歯薬学研究部	地域看護学分野
中野 沙織	徳島大学大学院医歯薬学研究部	地域看護学分野

#### 研究協力者

中野 晋	徳島大学 環境防災研究センター
尾野 美香	徳島大学 環境防災研究センター

## 目次

I 事業概要	1
1. 調査に至った経緯, 実施背景, 目的	2
(1) 実施背景	2
(2) 研究目的	2
2. 調査実施概要	3
(1) 研究方法	3
(2) 対象者	3
(3) 研修プログラム	4
(4) 事前調査, 事後調査の実施	4
(5) 分析方法	5
(6) 倫理的配慮	5
II. 調査事業報告	6
1. 対象者の概要	7
(1) セミナーの参加者について	7
(2) 複合災害に関する情報の入手先	14
2. セミナー受講による効果について	17
(1) セミナー受講による理解の程度	17
(2) 災害時の備えについて	18
(3) 防災意識の変化 (セミナー前後の比較)	20
(4) セミナーへの意見, 今後の講座など (自由記述)	25
3. まとめ	27
(1) セミナーについて	27
(2) アンケート分析結果について	29
文献	32
資料	33
資料1 (事前アンケート)	34
資料2 (事後アンケート)	40
資料3 (研究説明文書)	44
資料4 (案内チラシ)	48

# I 事業概要

## 1. 調査に至った経緯, 実施背景, 目的

### (1) 実施背景

わが国では, 毎年, 地震や風水害など, 多くの自然災害が発生している. また, 現在, 新型コロナウイルス感染症が蔓延している状況から, 今後近い将来, 大規模災害が発生した場合に避難所でクラスターによる爆発的な感染拡大が起こるおそれがあり, 「複合災害への備え」が喫緊の課題となっている. 2011年3月11日に発生した東日本大震災では, 大規模災害時における「公助」の限界が明らかになった一方で, 「自助」, 「共助」の重要性が再認識され, これをきっかけにして, 「自助」, 「共助」の力を向上させる取組として, 防災教育への関心が高まっている<sup>1)</sup>. 今後, 防災教育においては, これまでの災害対策に加え, 複合災害への備えとして感染症対策の内容も踏まえた教育により, 「自助」「共助」の力を高めていく必要がある.

妊産婦や乳幼児は災害弱者に分類される. 東日本大震災以降, 母子に配慮した防災対策の必要性が認識されるようになり, 各地で様々な母子の災害対策事業が立ち上がっている. 東京都では, 「妊産婦・乳幼児を守る災害対策ガイドライン」が作成され, 母子に配慮した防災対策が, 災害時の母子の安心安全を確保するだけでなく平時からともに助け合うまちづくりにつながる<sup>2)</sup>と述べられている. 徳島県では, 妊産婦に対して防災に関する普及啓発を図ることを目的に「防災ノート～赤ちゃん和妈妈を守るために～」を作成しており, すべての妊婦に対して母子健康手帳と共に配布されるようになっている<sup>3)</sup>. このように, 母子を対象とした防災対策により, 自助・共助の向上の効果が期待できる.

### (2) 研究目的

母子への「複合災害への備え」に関する防災教育の必要性とその意義は明らかである. しかし, 母子への防災教育について, 乳幼児健診等で災害への備えについてのパンフレットは配布されているが, 十分な防災教育はなされていないのが現状である. そこで本研究は, 乳幼児をもつ保護者を対象に複合災害に関するセミナーを開催することで, 知識と技術を普及啓発し, 防災意識の向上および備えを推進していくことを目的とした.

さらに, 現在新型コロナウイルス感染症が流行しているため, 地域における母子保健はこれまでと違った新しい生活様式に沿った活動が求められている. 感染症予防として, 3密を避けるために多くの集団での母子保健事業が中止となり, その後再開されてからも, 少人数での開催となっている. 行政や子育て支援施設によっては, ケーブルテレビやオンラインを活用した事業の計画・実施を進めている. そこで, 本研究における普及啓発活動においても, オンラインを用いた.

## 2. 調査実施概要

### (1) 研究方法

本研究の一連の研究の流れを図1に示した。

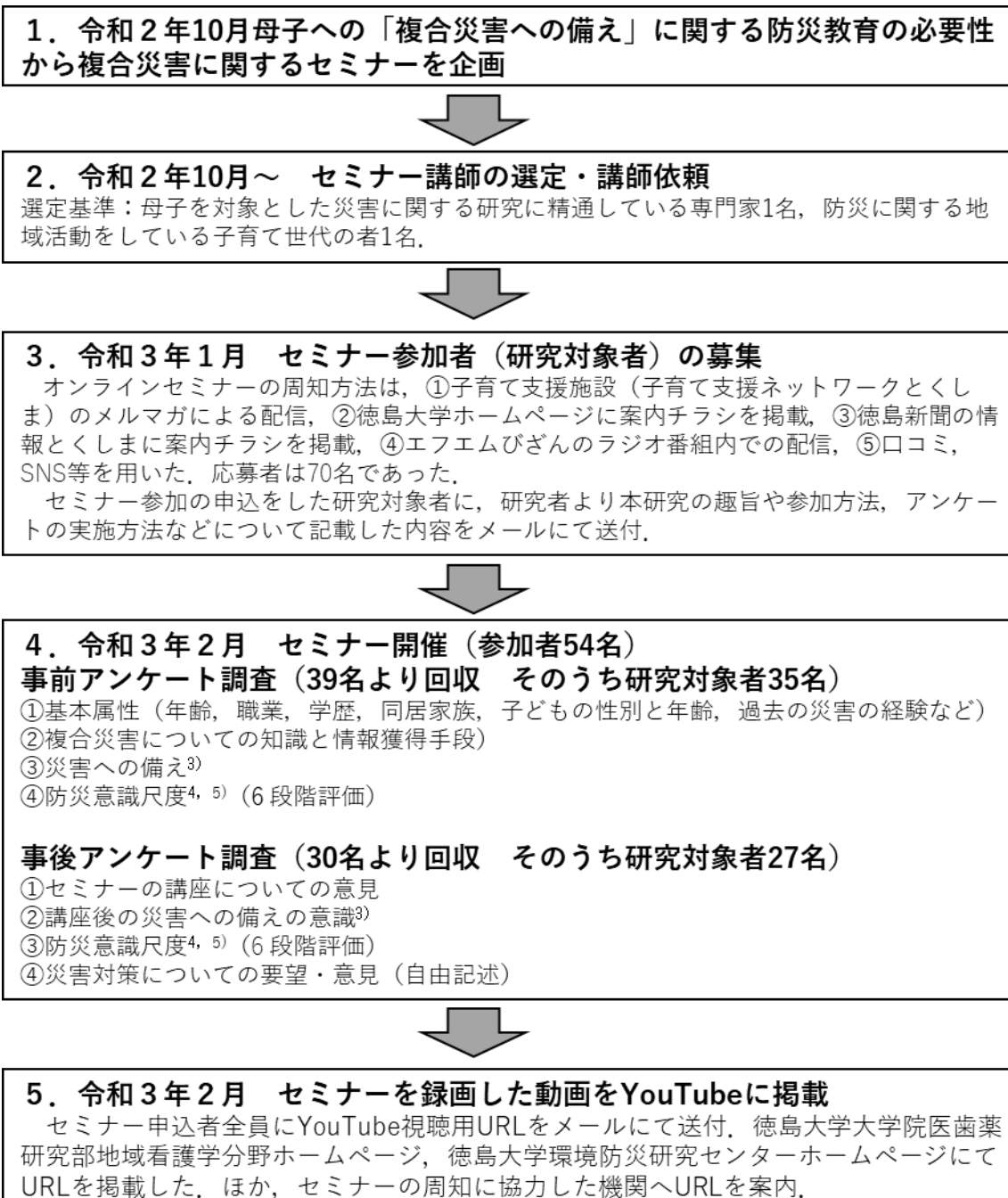


図1 研究の流れ

### (2) 対象者

対象者は，本セミナーに参加し，アンケート調査への協力を同意した徳島県内で乳幼児を養育している保護者である。保護者には，母親と父親を含み，年齢は問わないこととし

た.

### (3) 研修プログラム

セミナーは、令和3年2月2日(火)にWeb会議サービス『Zoom』にてオンラインで開催した。セミナー開始前に、研究者より本セミナーのタイムスケジュールや、事前アンケートについて説明した後、2名の講師による複合災害セミナーを実施した(表1)。講演の内容は後日YouTubeで一般公開した。URL：<https://youtu.be/K2L3lCdnxF>

表1 セミナー開催スケジュール

セミナープログラム				
開始	終了	時間 (分)	プログラム	趣旨・構成内容
10:00	10:30	30	開会挨拶, スケジュール説明, 事前アンケート入力など	
10:30	11:00	30	講演	「乳幼児をもつご家庭が複合災害に遭ったらーその時に役立つ受援力とは？」 演者：吉田 穂波先生（神奈川県立保健福祉大学ヘルスイノベーション研究科 教授） 
11:00	11:30	30	講演	「おやこで防災スイッチ ON! ママ防災士と一緒に考えよう！」 演者：瀬戸 恵深先生（エフエムびざん ディレクター・パーソナリティー, ラジオとくしま防災委員会事務局長, ママ防災士） 
11:30	11:45	15	質疑応答	講演に対する質疑応答
11:45	12:00	15	事後アンケート記入, 閉会挨拶	

### (4) 事前調査, 事後調査の実施

セミナーに参加を希望した徳島県に在住している乳幼児を養育している保護者を対象とし、事前・事後のアンケート調査を実施した。質問項目は、「複合災害に対する防災意識

と備えに関するアンケート調査（セミナー前・後）」とした（表 2，資料 1，2）。

表 2 アンケートの質問内容

事前アンケート
①基本属性（年齢，職業，学歴，同居家族，子どもの性別と年齢，過去の災害の経験など）
②複合災害についての知識と情報獲得手段）
③災害への備え <sup>3)</sup>
④防災意識尺度 <sup>4, 5)</sup> （6 段階評価）
事後アンケート
①セミナーの講座についての意見
②講座後の災害への備えの意識 <sup>3)</sup>
③防災意識尺度 <sup>4, 5)</sup> （6 段階評価）
④災害対策についての要望・意見（自由記述）

アンケート調査は，普及啓発活動（オンラインセミナー）の前後で実施した（Web 調査．各家庭で実施）．回答時間は，各 10 分間と設定した．

セミナーの周知，参加者の募集は，令和 3 年 1 月より開始した．周知方法には，①子育て支援施設（子育て支援ネットワークとくしま）のメルマガによる配信，②徳島大学ホームページに案内チラシ（資料 4）を掲載，③徳島新聞の情報とくしまに案内チラシ（資料 4）を掲載，④エフエムびざんのラジオ番組内での配信，⑤ロコミ，SNS 等を用いた．

#### （5）分析方法

複合災害に対する防災意識と備えの実態を明らかにするため，記述統計を用いた．また，講座参加前と後で防災意識や備えに変化があったかどうかを人数（%）で比較検討した．

#### （6）倫理的配慮

研究実施にあたり，徳島大学病院医学系研究倫理審査委員会の承認を得て実施した（承認番号：3865）．対象者の自由意思に基づく研究参加であることを前提とし，本研究の内容をあらかじめ返信用のメール文面と，メールとともに添付した研究説明文書（資料 3）で説明し対象者を募った．研究対象者が本研究に同意する場合は，セミナー当日の事前・事後のアンケート調査時に，質問紙の同意確認欄にチェックをして同意の意思を示すこととした．セミナー動画の公開は，セミナー当日に講師と参加者に許可を得た上で行った．



## Ⅱ 調査事業報告

## 1. 対象者の概要

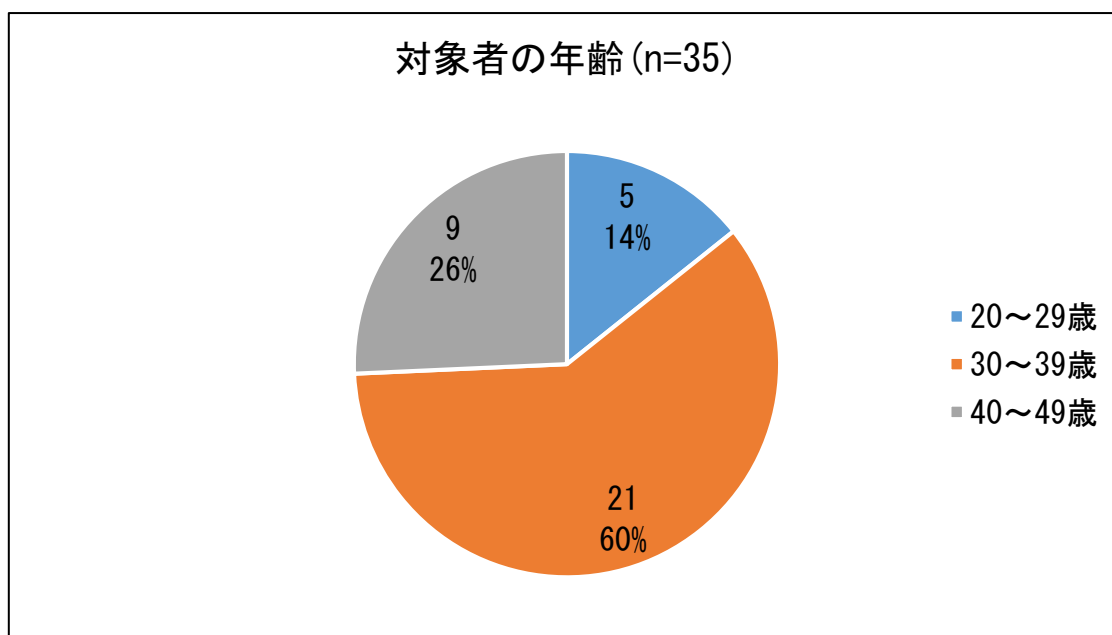
### (1) セミナーの参加者について

本セミナー開催にあたり、事前の参加申込をした者は、70名であった。その内、当日セミナーに参加した人数は54名であった。セミナーを視聴した者のうち、事前アンケートに回答した者は39名で、事前・事後アンケート両方に回答をした者は30名であった。事前アンケートに回答した39名のうち、研究対象に含まれていない4名を除いた35名を分析の対象とした。また、事前・事後アンケート両方に回答した30名のうち、研究対象に含まれていない3名を除いた27名のデータを用いて防災意識の変化の比較、災害への備えについての分析を行った。

アンケートの結果は以下の通りである。

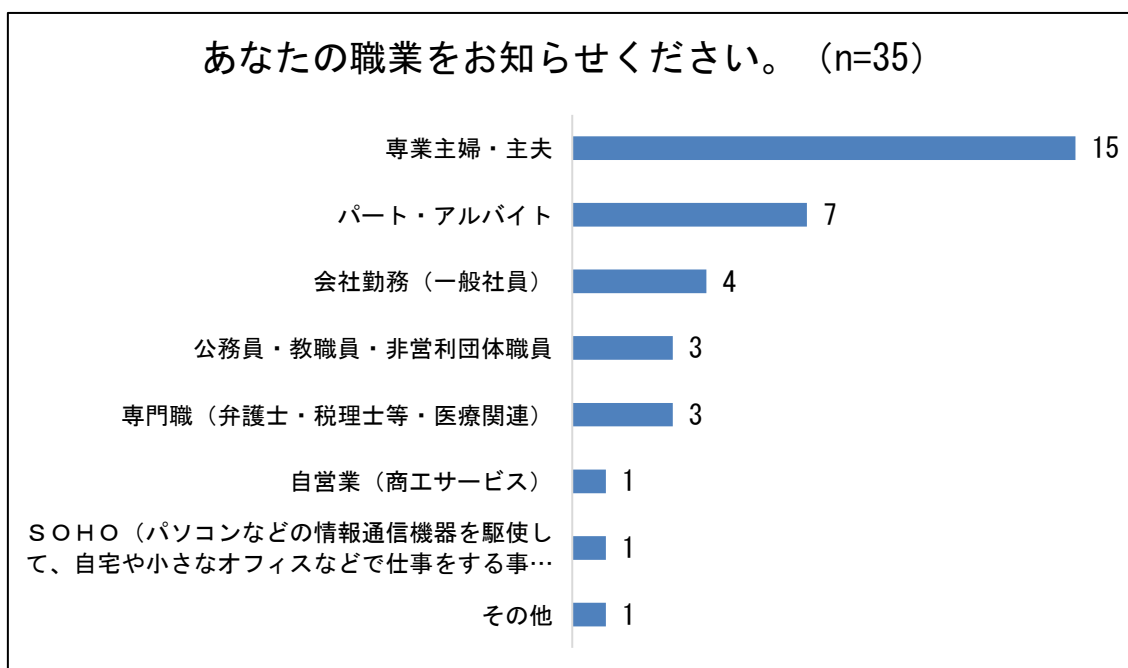
#### 1-1 対象者の性別，年齢

分析対象者は35名で、すべて女性であった。対象者の年齢は27～48歳（年齢平均36.00歳）、30歳代が最多で21名(60%)、続いて40歳代9名(26%)、20歳代5名(14%)であった。



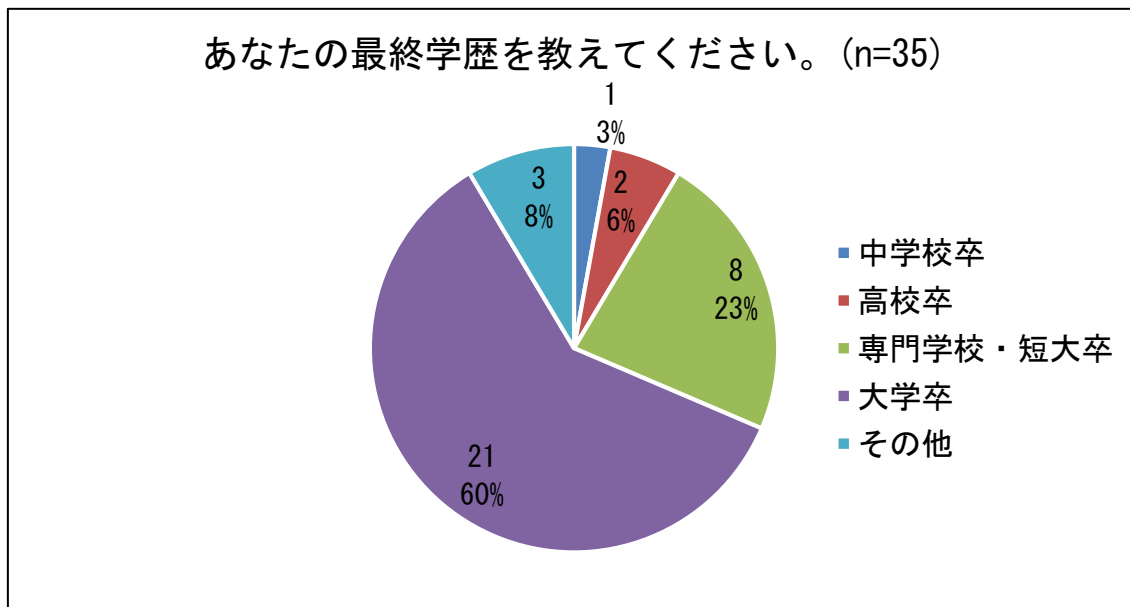
## 1-2 アンケート回答者の属性（職業）

職業は、専業主婦・主夫が15名（43%）、パート・アルバイトが7名（20%）、公務員・教職員・非営利団体職員が3名（9%）、会社勤務（一般社員）が4名（11%）、専門職（弁護士・税理士等・医療関連）が3名（9%）、自営業（商工サービス）が1名（3%）SOHO（パソコンなどの情報通信機器を駆使して、自宅や小さなオフィスなどで仕事をする事業者）が1名（3%）、その他が1名（自由回答：自営業）（3%）であった。そのほか、無職、派遣社員・契約社員、農林漁業、学生、会社経営（経営者・役員）、会社勤務（管理職）職業を選択する者はいなかった。



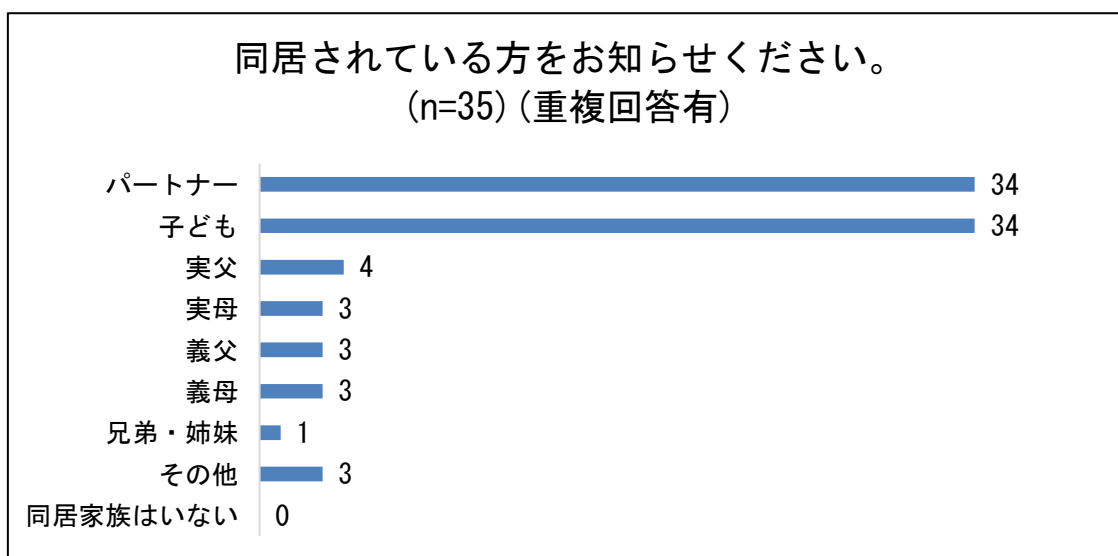
### 1-3 アンケート回答者の属性（最終学歴）

最終学歴は、中学校卒が1名（3%）、高校卒が2名（6%）、専門学校・短大卒が8名（23%）、大学卒が21名（60%）、その他（大学院卒）が3名（8%）であった。



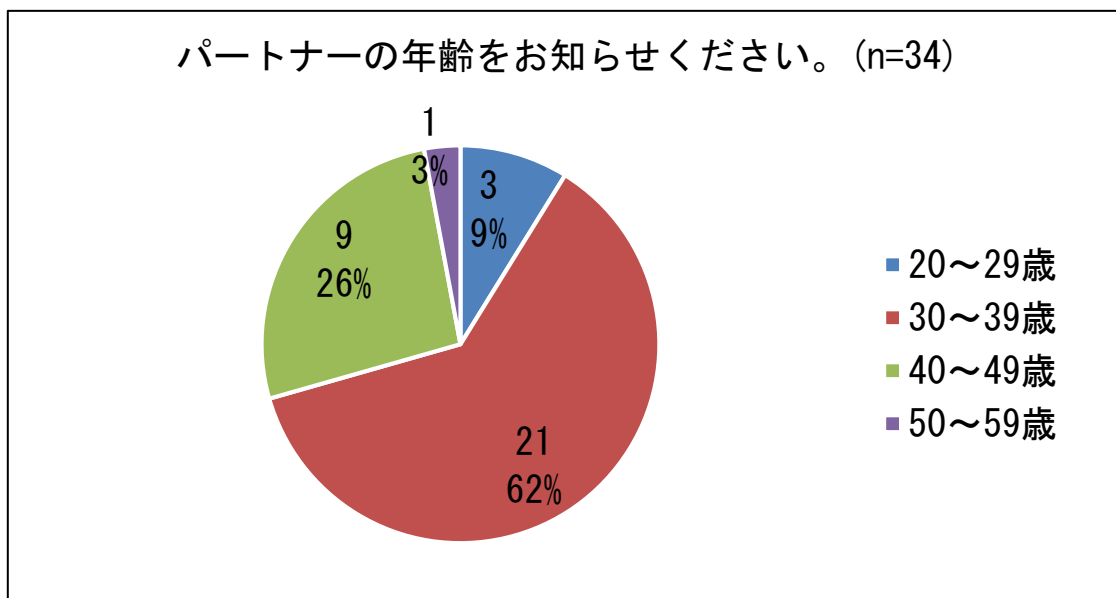
### 1-4 アンケート回答者の属性（同居人について）

パートナーと同居している者が、34名（97%）であった。続いて、子どもと同居している者が34名（97%）、実父と同居している者が4名（11%）、実母と同居している者が3名（9%）、義父と同居している者が3名（9%）、義母と同居している者が3名（9%）、兄弟・姉妹と同居している者が1名（3%）その他と回答した者が3名（4%）（祖父と回答した者1名、祖父母と回答した者1名、義理祖母と回答した者1名）、同居家族はいない者はいなかった。



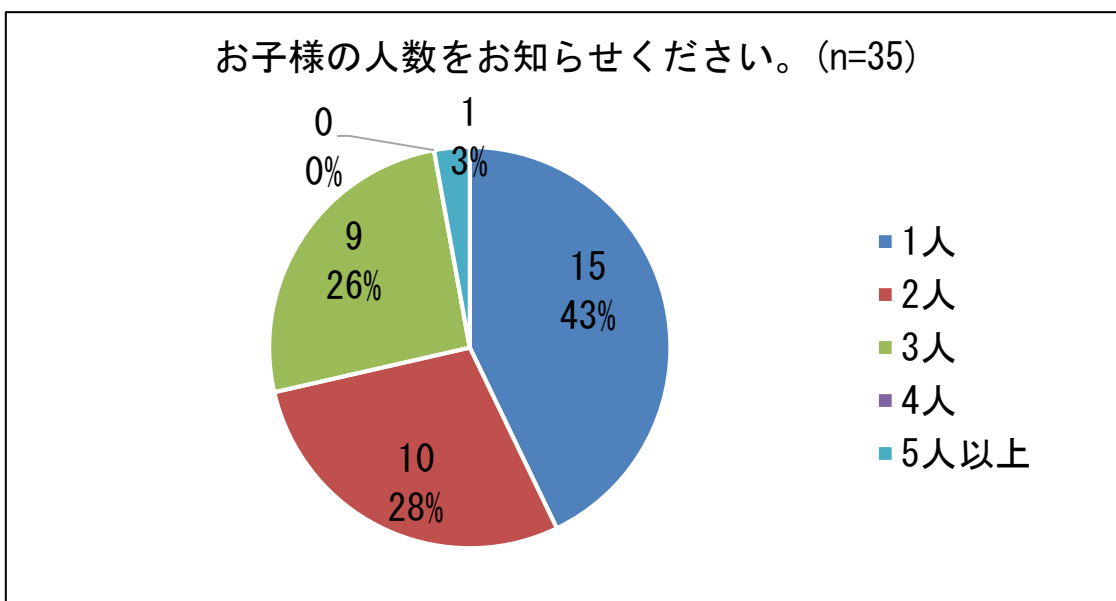
#### 1-5 アンケート回答者の属性（パートナーの年齢）

パートナーがいると答えた 34 名で集計した。パートナーの年齢は、27～51 歳（年齢平均 37.56 歳）であった。30 歳代が最多で 21 名 (62%)，続いて 40 歳代 9 名 (26%)，20 歳代 3 名 (9%)，50 歳代 1 名 (3%) であった。



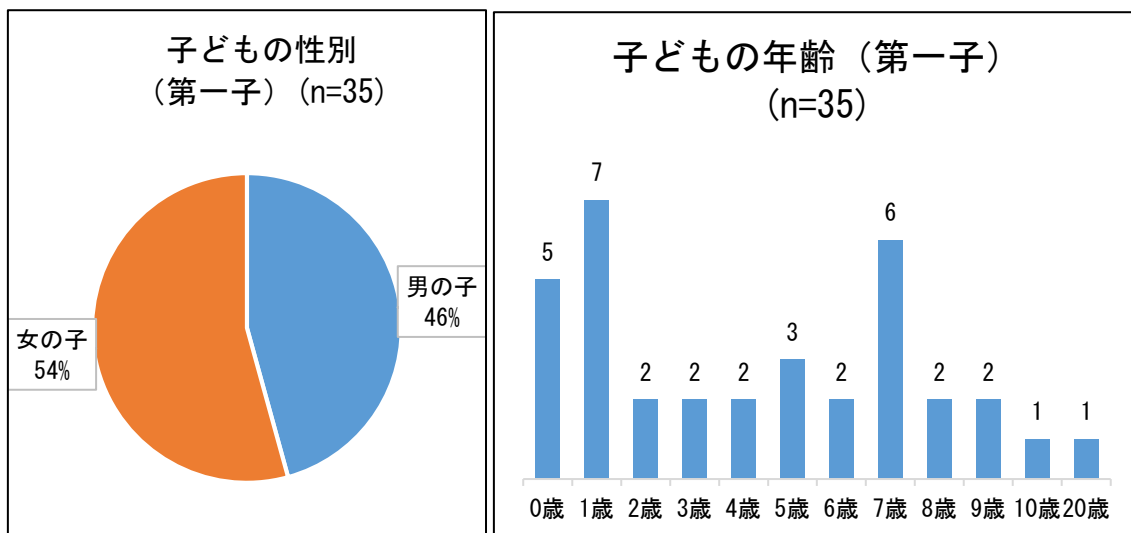
#### 1-6 アンケート回答者の属性（子どもの人数）

子どもの数は、一人が 15 名 (43%)，2 人が 10 名 (29%)，3 人が 9 名 (26%)，4 人が 0 名，5 人以上が 1 名 (3%) であった。



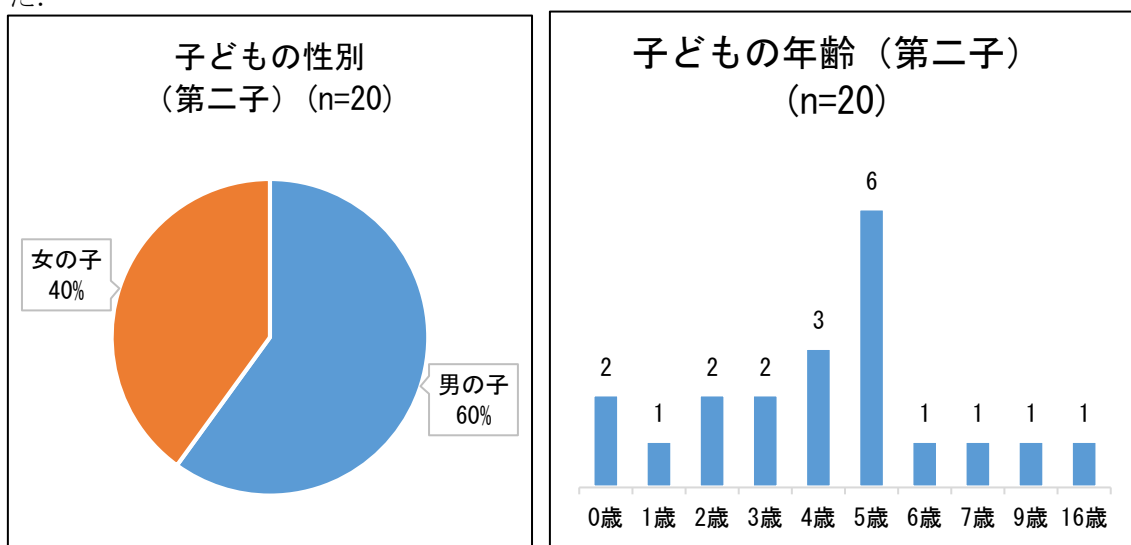
### 1-7 アンケート回答者の属性（子どもの性別と年齢，第一子）

第一子の性別では，男の子が16名（46%），女の子が19名（54%）であった．第一子の年齢は，0歳4か月～20歳であった．年齢は，1歳未満が5名（14%），1歳が7名（20%），2歳が2名（5%），3歳が2名（6%），4歳が2名（6%），5歳が3名（8%），6歳が2名（6%），7歳が6名（17%），8歳は2名（6%），9歳が2名（6%），10歳が1名（3%）．20歳が1名（3%）であった．



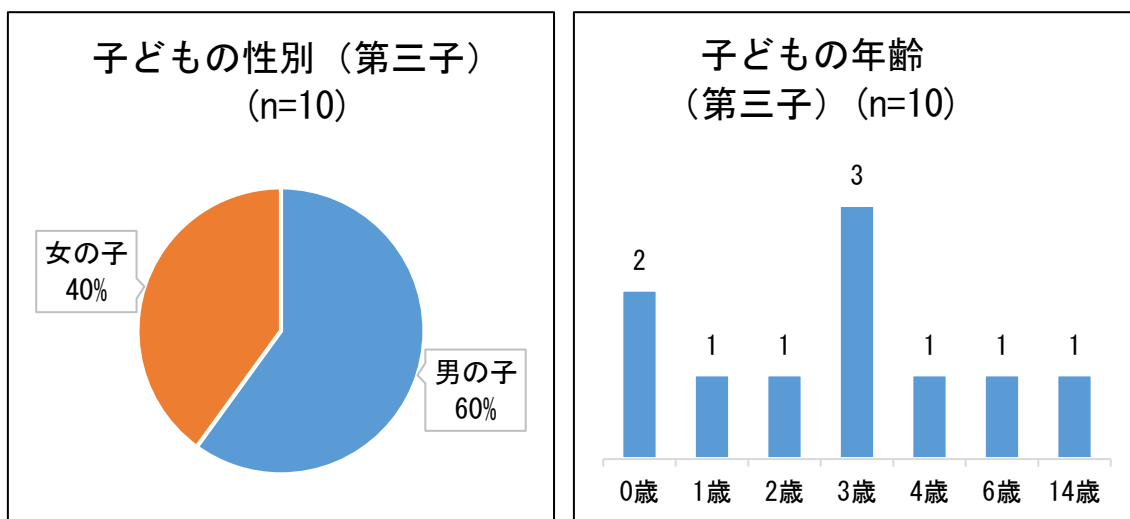
### 1-8 アンケート回答者の属性（子どもの性別と年齢，第二子）

第二子がいる者は，20名であった．第二子の性別では，男の子が12名（60%），女の子が8名（40%）であった．第二子の年齢は，0歳3か月～16歳であった．年齢は，1歳未満が2名（10%），1歳が1名（5%），2歳が2名（10%），3歳が2名（10%），4歳が3名（15%），5歳が6名（30%），6歳，7歳，9歳，16歳がそれぞれ1名（5%）であった．



### 1-9 アンケート回答者の属性（子どもの性別と年齢，第三子）

第三子がいる者は，10名であった．第三子の性別では，男の子が6名（60%），女の子が4名（40%）であった．第二子の年齢は，0歳3か月～14歳であった．年齢は，1歳未満が2名（20%），1歳，2歳がそれぞれ1名（10%），3歳が3名（30%），4歳，6歳，14歳がそれぞれ1名（10%）であった．



### 1-10 アンケート回答者の属性（子どもの性別と年齢，第四子）

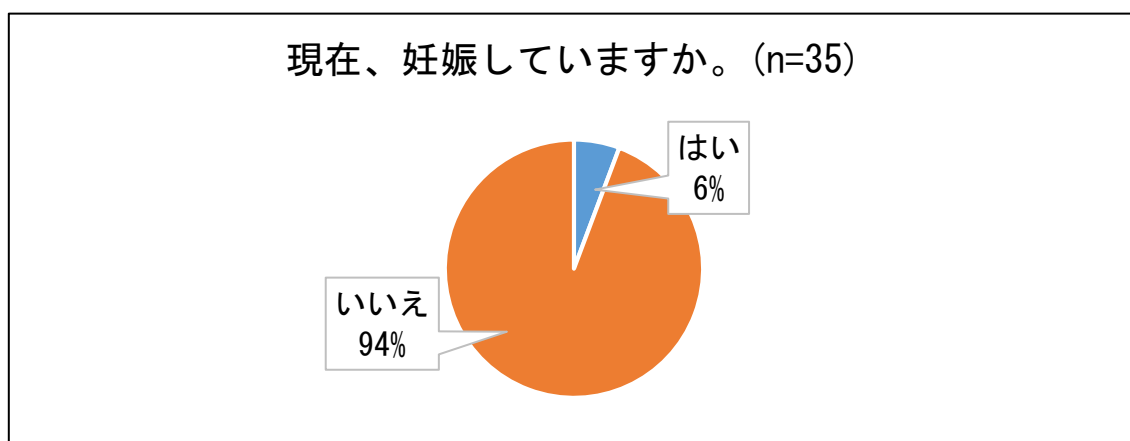
第四子がいる者は，1名であった．第四子の性別は，女の子が一人で，年齢は6歳であった．

### 1-11 アンケート回答者の属性（子どもの性別と年齢，第四子）

第五子がいる者は，1名であった．第五子の性別は，男の子が一人で，年齢は1歳であった．

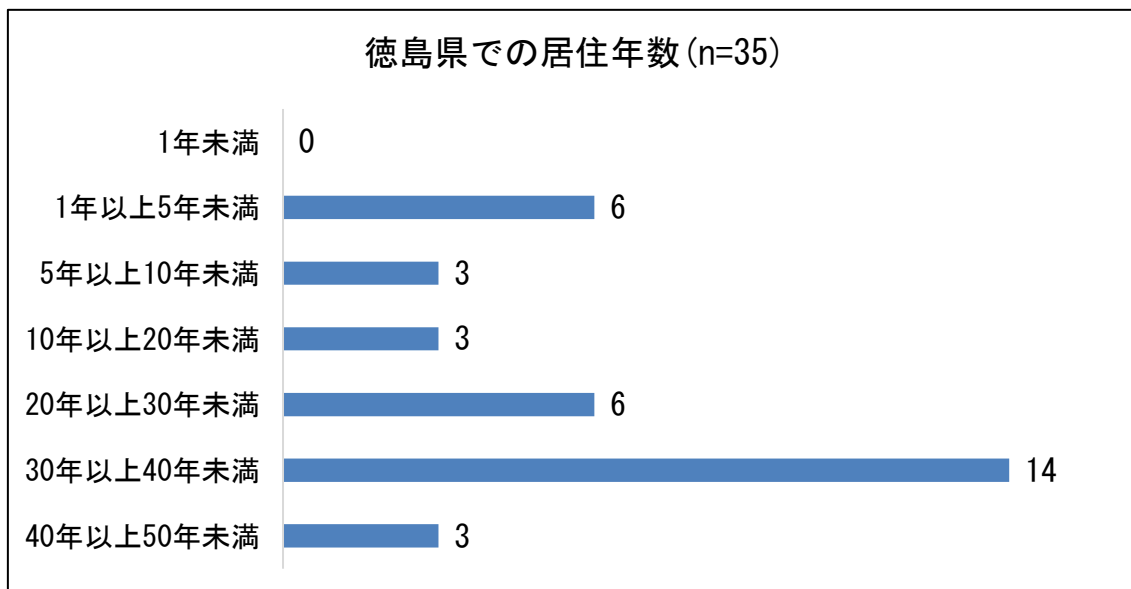
### 1-12 アンケート回答者の属性（妊娠の有無）

現在妊娠している者は，2名（6%），妊娠していない者は，33名（94%）であった．



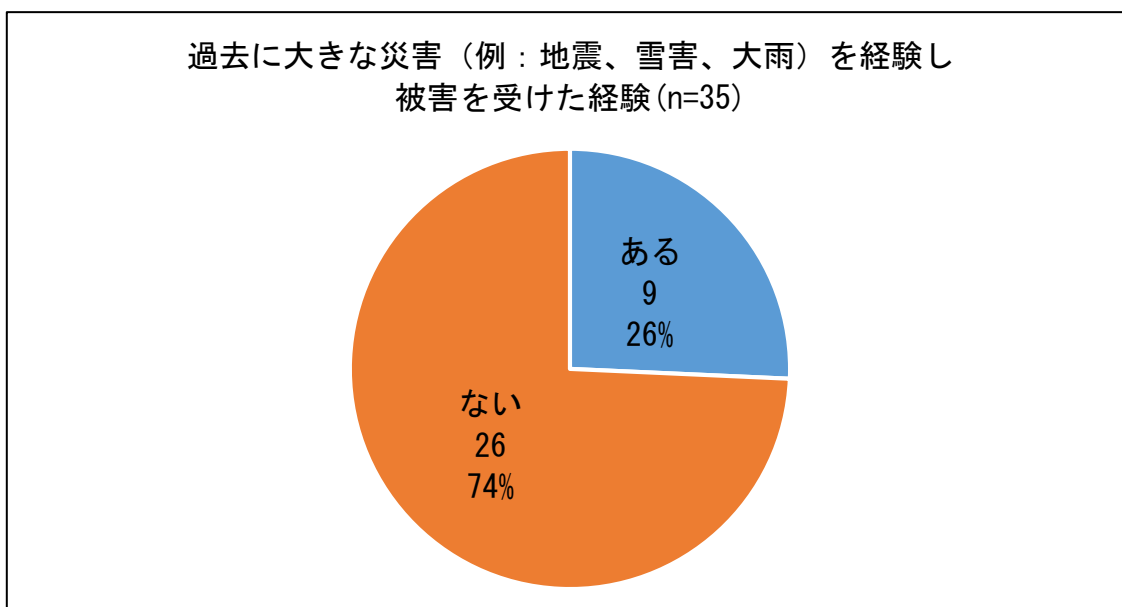
### 1-13 アンケート回答者の属性（徳島県での居住年数）

徳島県での居住年数は、最も短い居住期間が2年、最も長い居住期間が41年であった。



### 1-14 アンケート回答者の属性（過去の被災経験の有無）

過去に大きな災害（例：地震、雪害、大雨）を経験し被害を受けた経験がある者は、9名（26%）、経験がない者は26名（74%）であった。

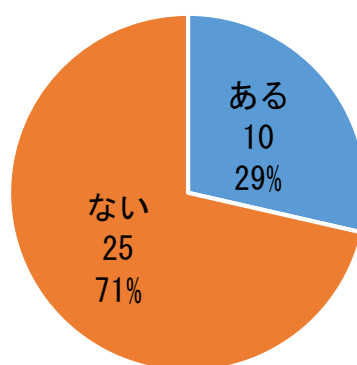




### 1-15 アンケート回答者の属性（身近な人の被災経験の有無）

身近な人が、過去に大きな災害（例：地震、雪害、大雨など）を経験し、被害を受けた経験があるものは、10名（29%）、経験がない者は25名（71%）であった。

身近な人が、過去に大きな災害（例：地震、雪害、大雨など）を経験し、被害を受けた経験(n=35)

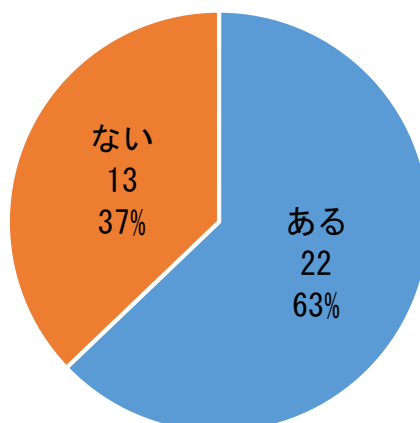


### (2) 複合災害についての知識と情報入手先

#### 2-1 日頃から身近な人と災害を話題とした会話をすることがあるか

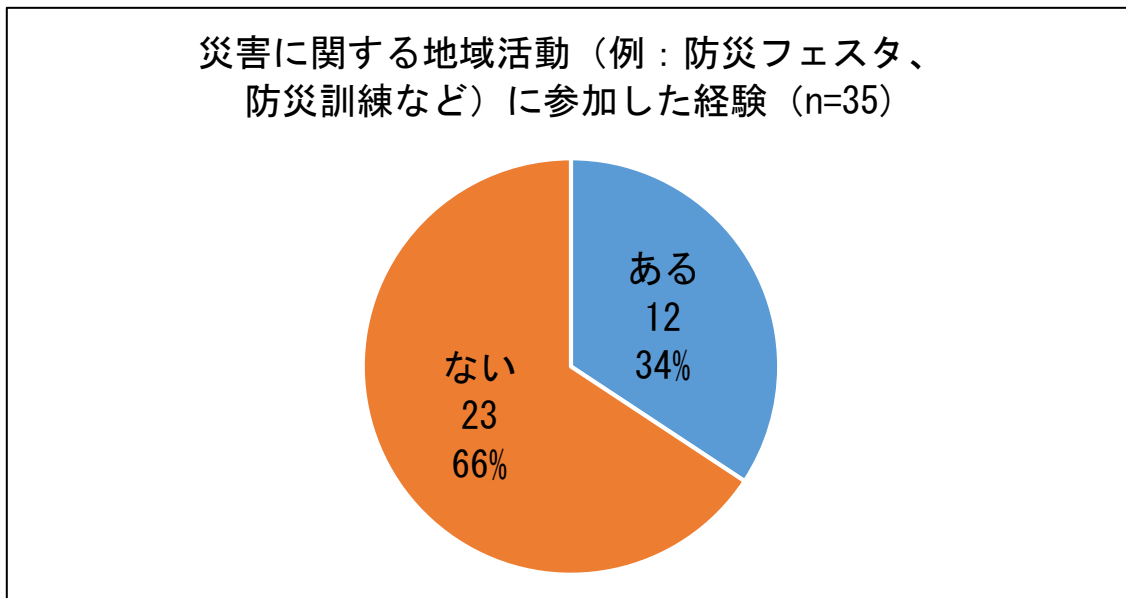
日頃から身近な人と災害を話題とした会話（SNSなどの交流を含む）をする者がある者は、22名（63%）、することがない者は、13名（37%）であった。

日頃から身近な人と災害を話題とした会話（SNSなどの交流を含む）をすることはありますか(n=35)



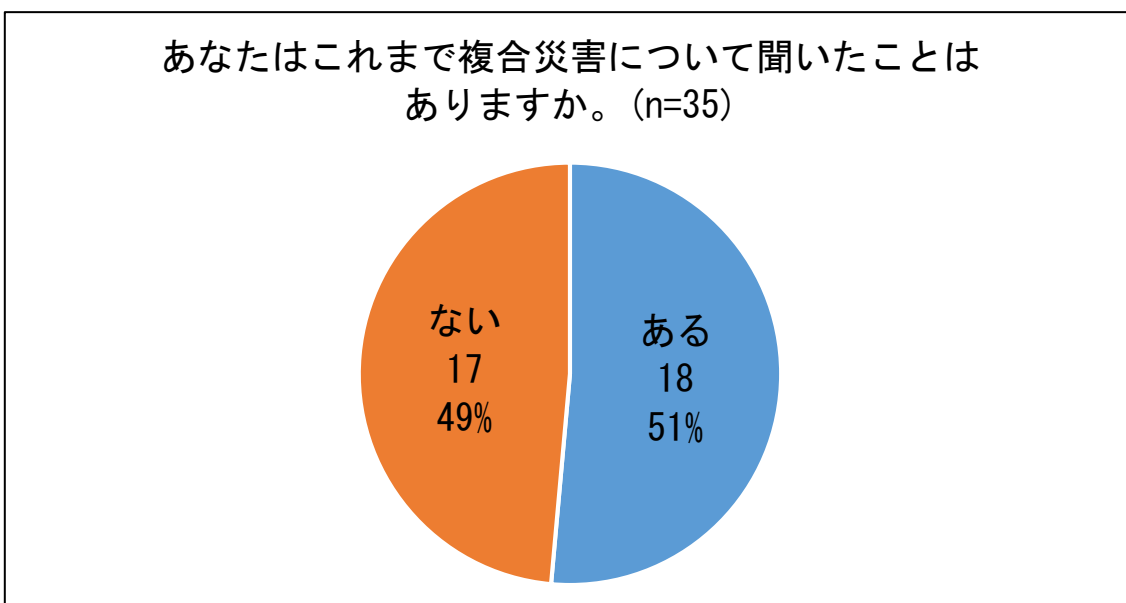
## 2-2 災害に関する地域活動に参加した経験

災害に関する地域活動（例：防災フェスタ、防災訓練など）に参加した経験がある者は、12名（34%）で、ない者は23名（66%）であった。



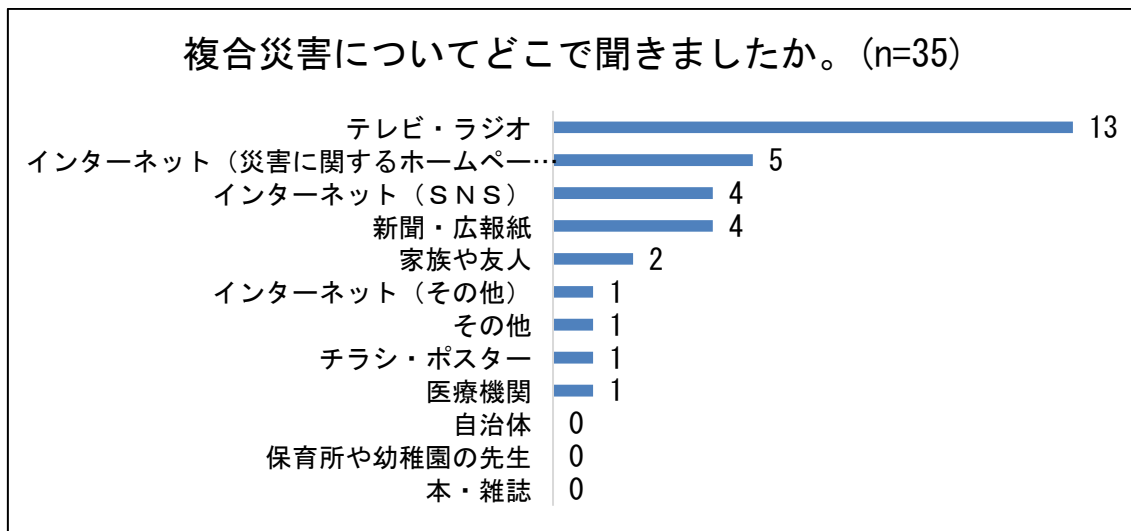
## 2-3 複合災害に関する知識の有無

これまでに複合災害について聞いたことがあった者は18名（51%）で、今回初めて聞いた者は、17名（49%）であった。



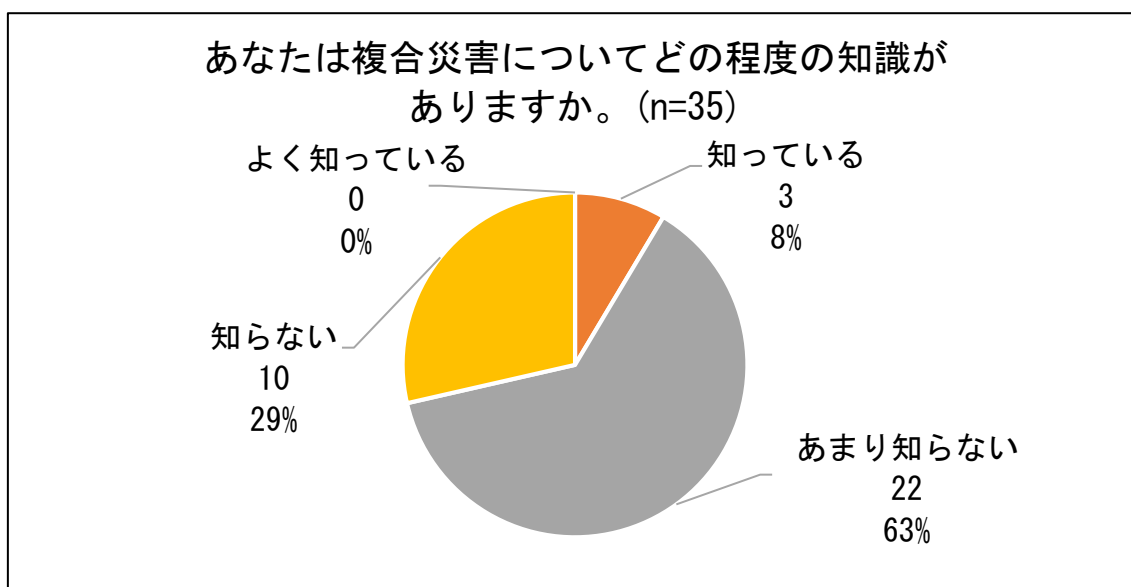
#### 2-4 複合災害に関する情報の入手先

複合災害に関する情報の入手先では、テレビ・ラジオが最も多く13名(41%)、次いでインターネット(災害に関するホームページ)が5名(16%)、インターネット(SNS)が4名(13%)、新聞・広報紙が4名(13%)、家族や友人が2名(6%)、インターネット(その他)、チラシ・ポスター、医療機関、その他(自由回答:女性防災会)が1名(3%)であった。自治体、本・雑誌、保育所や幼稚園の先生から情報を得ている者はいなかった。



#### 2-5 複合災害についての知識の程度

複合災害についての知識については、よく知っていると回答した者はいなかった。知っていると回答した者が3名(8%)、あまり知らないと回答した者が22名(63%)、知らないと回答した者が10名(29%)であった。

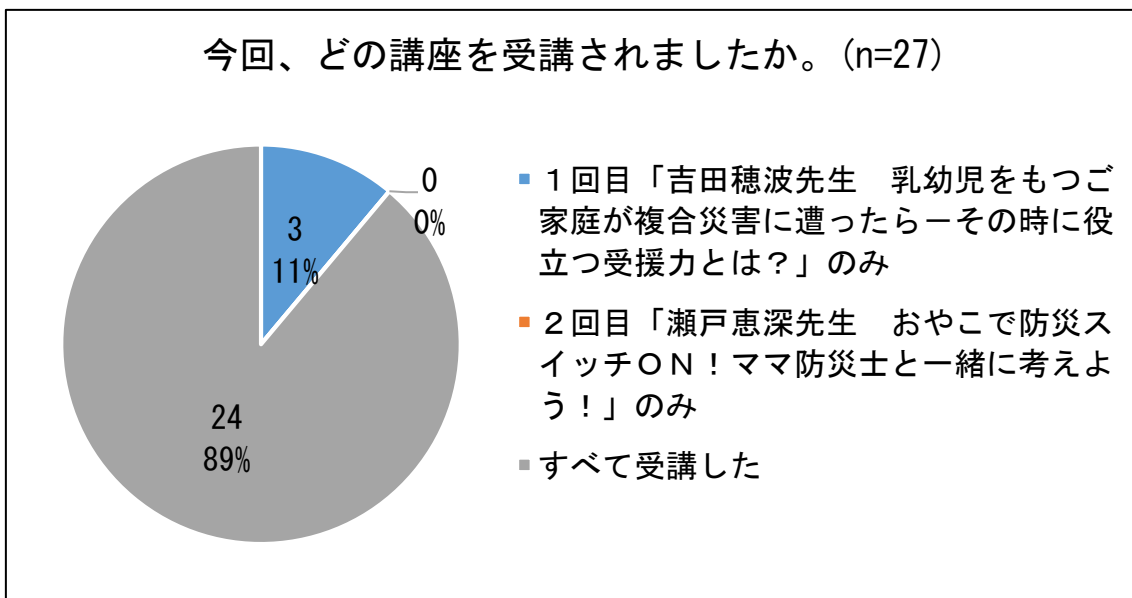


## 2. セミナー受講による効果について

### (1) セミナー受講による理解の程度

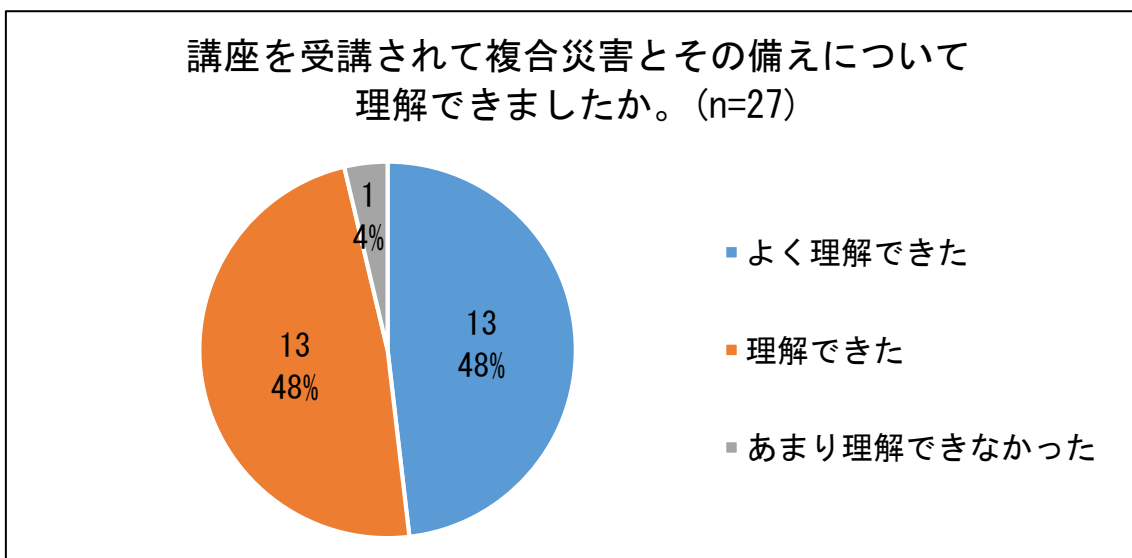
#### 1-1 どの講座を受講したか

すべての講座を受講した者が24名(89%), 1回目の講座のみ受講した者が3名(11%)であった。



#### 1-2 講座受講後の理解度

講座を受講し、複合災害とその備えについて、よく理解できたと回答した者が13名(48%), 理解できたと回答した者が13名(48%), あまり理解できなかったと回答した者が1名(4%)であった。あまり理解できなかったと回答した者の回答理由は、「通信環境不良により講座を十分に視聴できなかったため」であった。

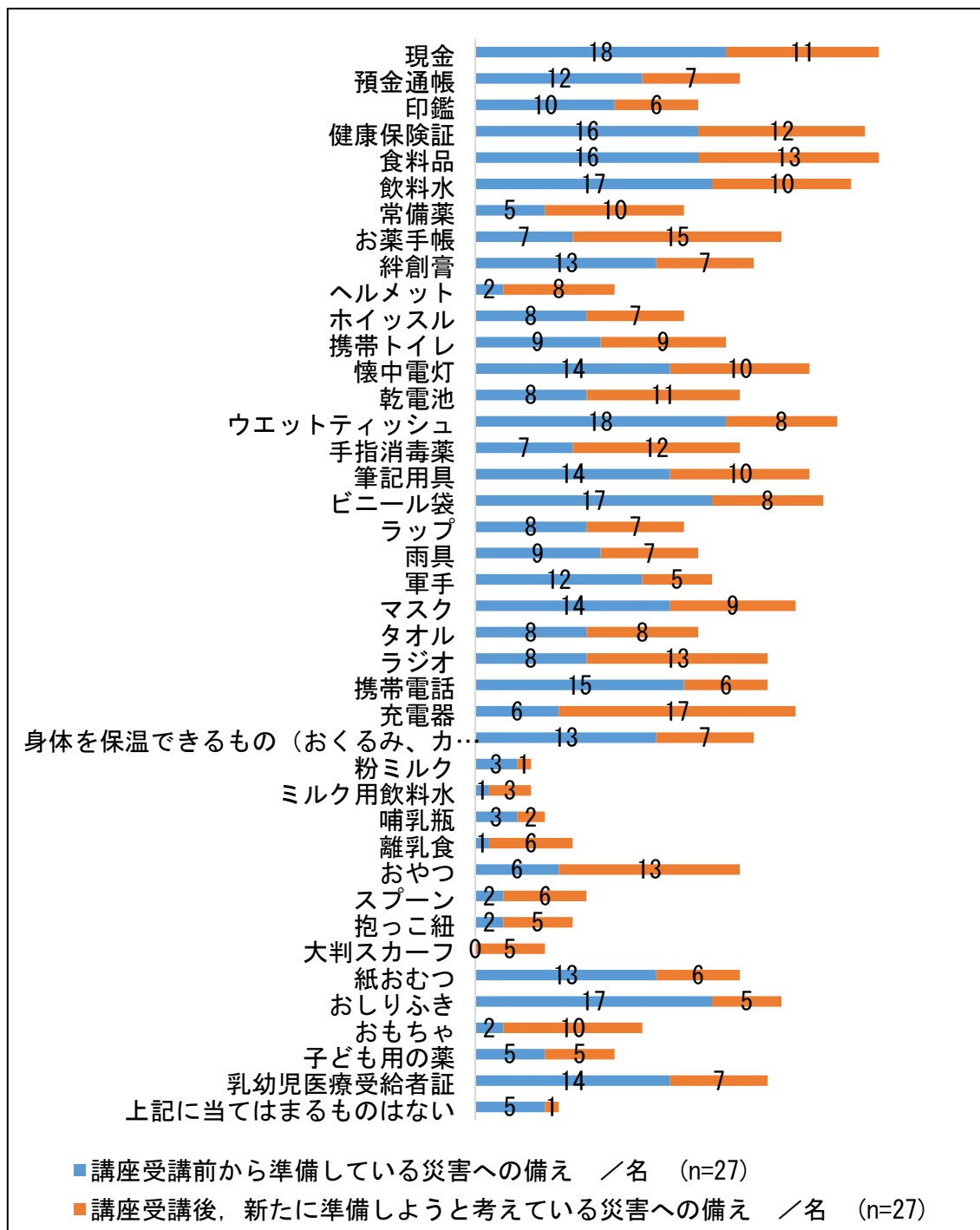


(2) 災害時の備えについて

2-1 講座受講前と、受講後で災害時の備えの変化

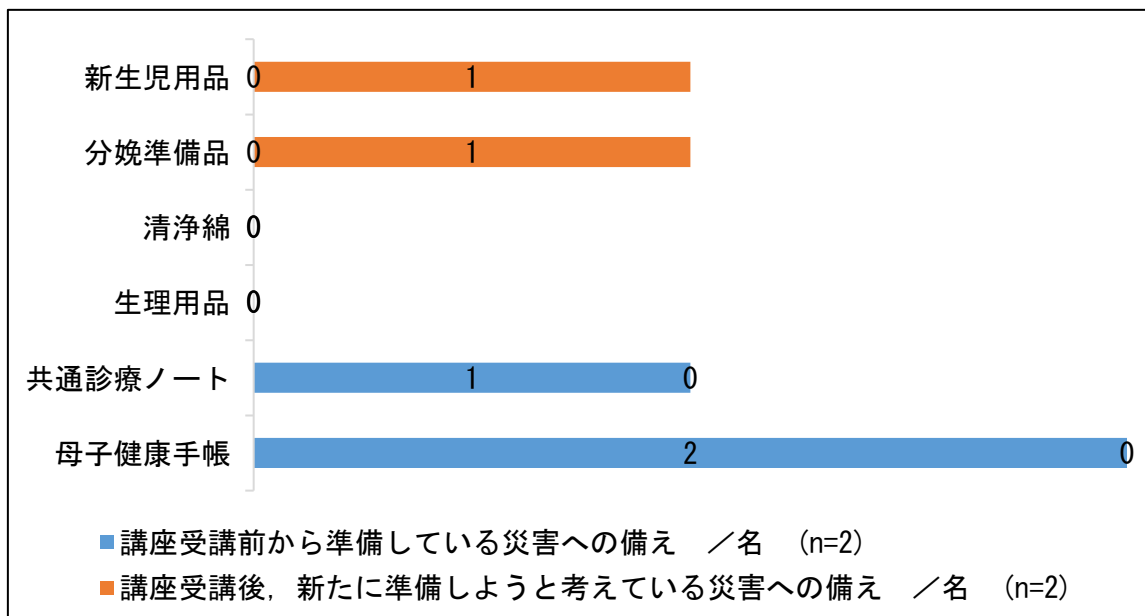
a アンケート対象者全員 (n=27)

全ての項目で、講座受講後に新たに準備しようと考えている災害への備えが増加していた。



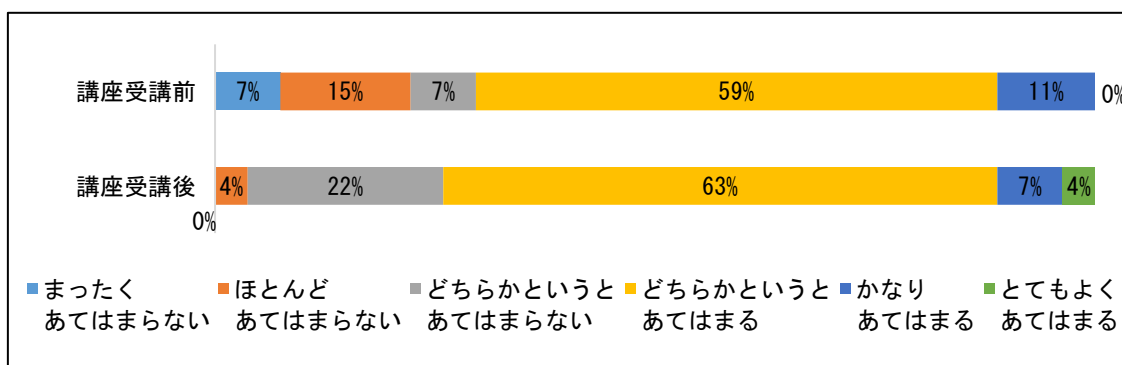
b 「現在、妊娠していますか。」に「はい」と回答した者のみ (n=2)

母子健康手帳については、すべての者が講座受講前より準備ができていた。新たに新生児用品や分娩準備品を準備しようとする者が1名（50%）いた。清浄綿や生理用品、共通診療ノートは講座受講によって変化はなかった。

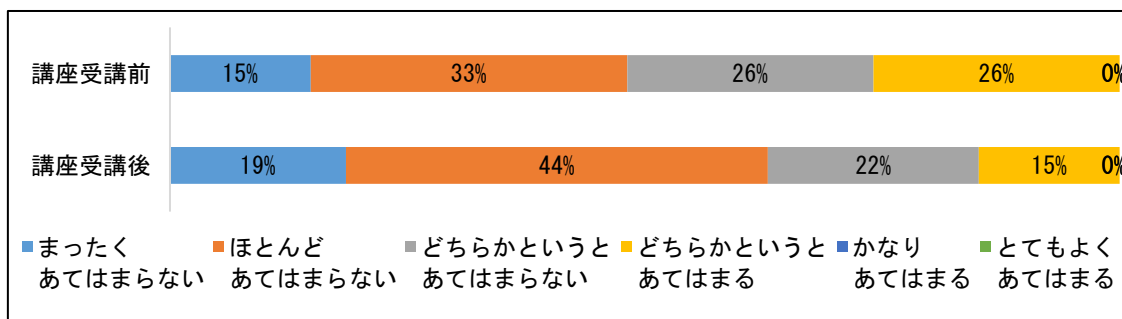


(3) 防災意識の変化 (セミナー前後の比較)

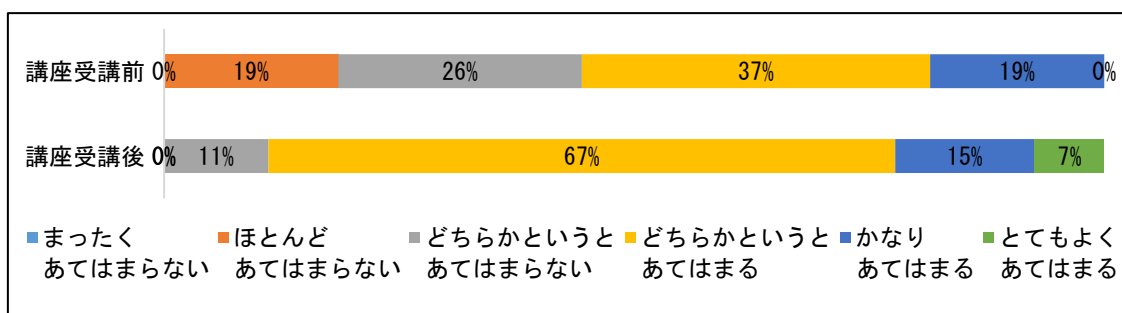
1 災害発生時に人々がどのような行動を取るか具体的なイメージがある (n=27)



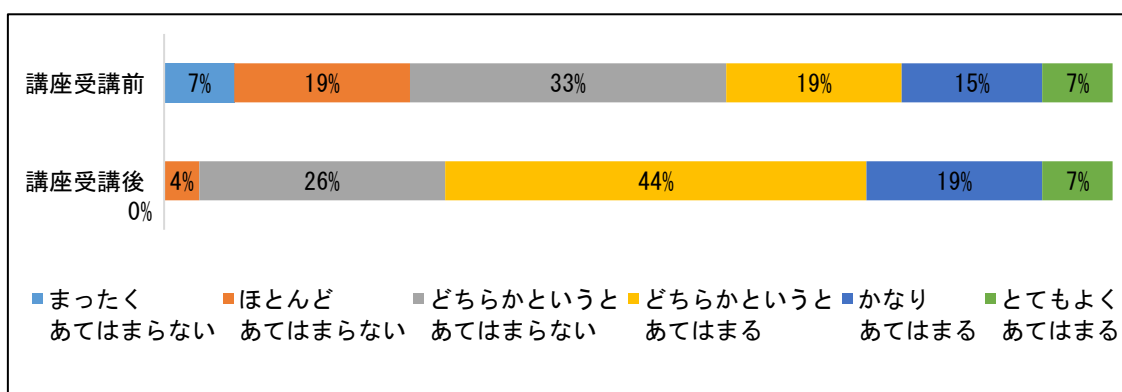
2 自分の利益にならないことはやりたくない (n=27)



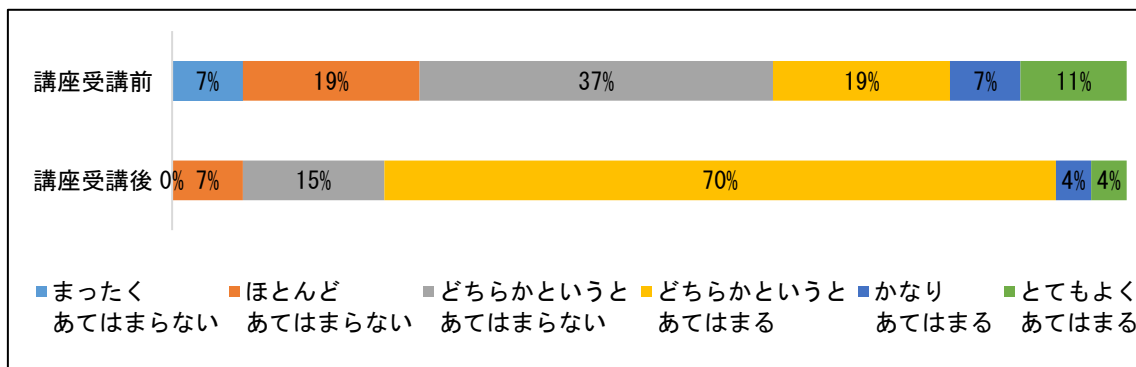
3 災害発生時に必要となる物資の具体的なイメージがある (n=27)



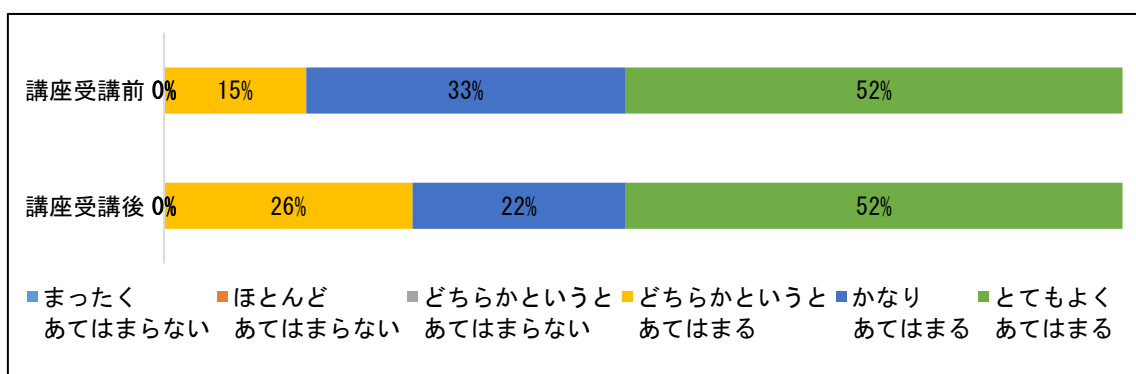
4 色々な友達をたくさんつくりたい (n=27)



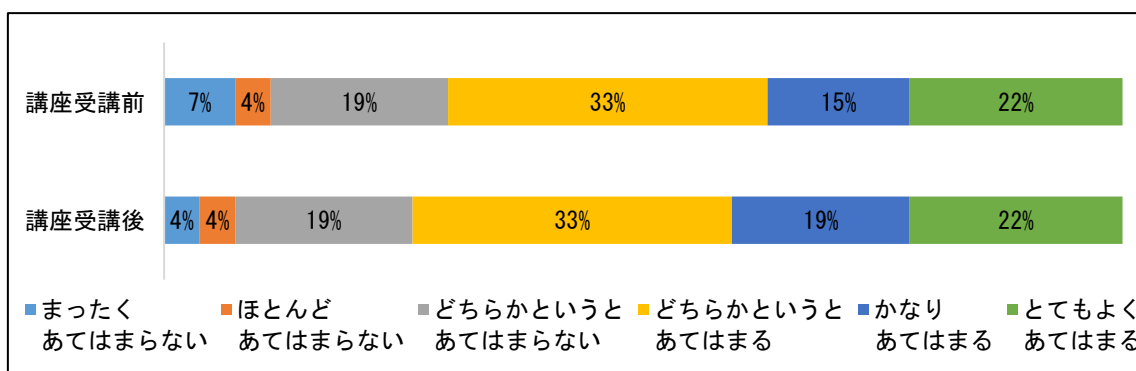
5 災害発生時に町がどうなるかの具体的なイメージがある (n=27)



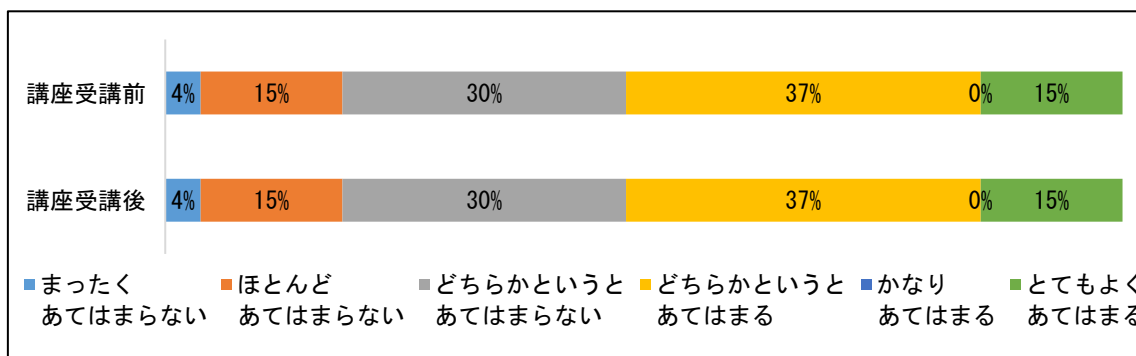
6 ひとたび災害が起きれば大変なことになると思う (n=27)



7 自分は心配性だと思う (n=27)

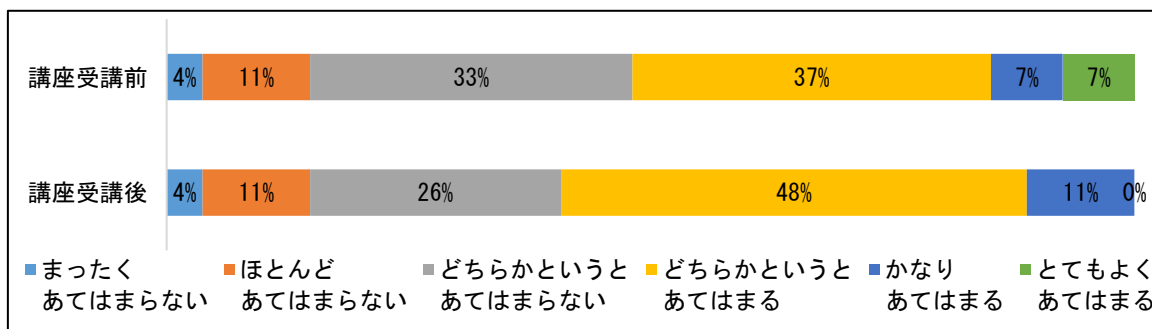


8 不安を感じることが多い (n=27)

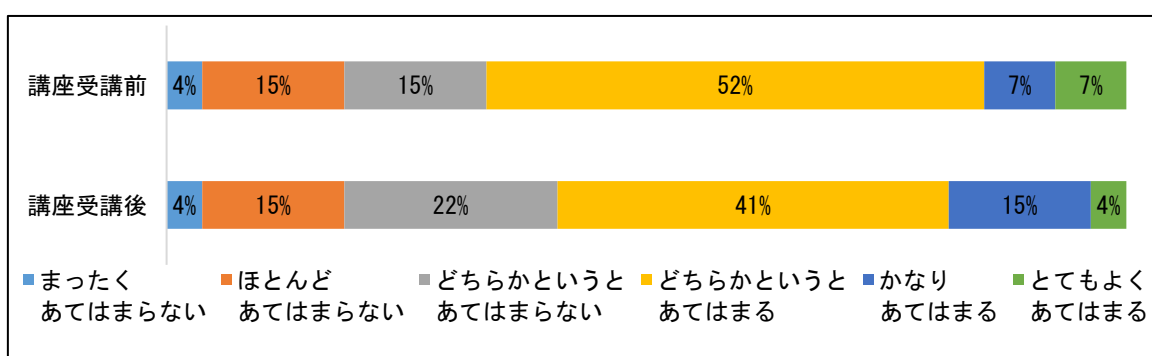




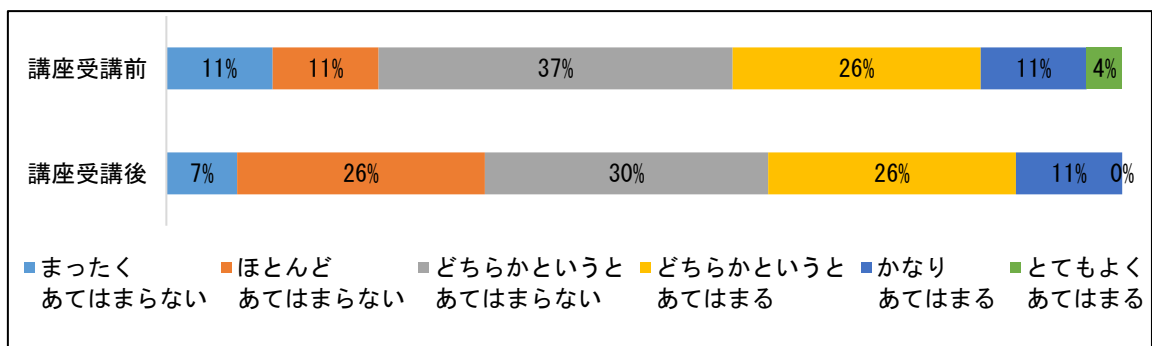
9 自分の身近なところで起きそうなことだけ考える (n=27)



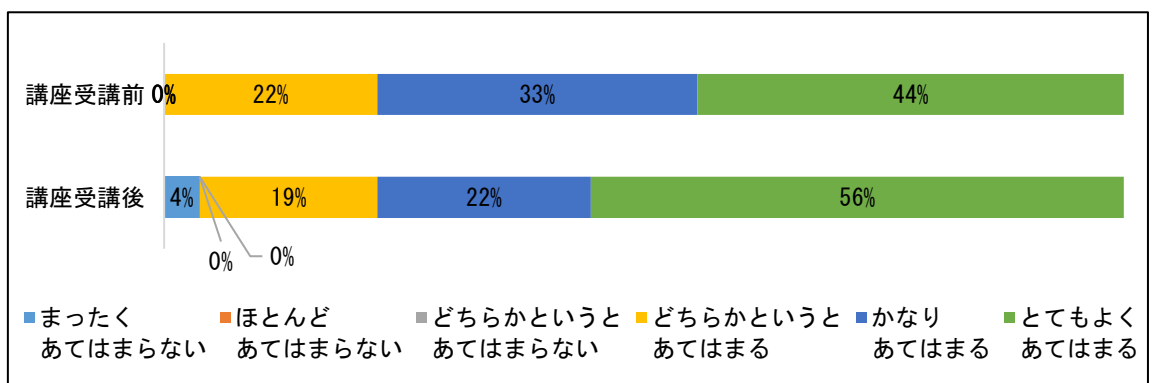
10 災害のことを考え始めると、様々なパターンの被害を妄想してしまう (n=27)



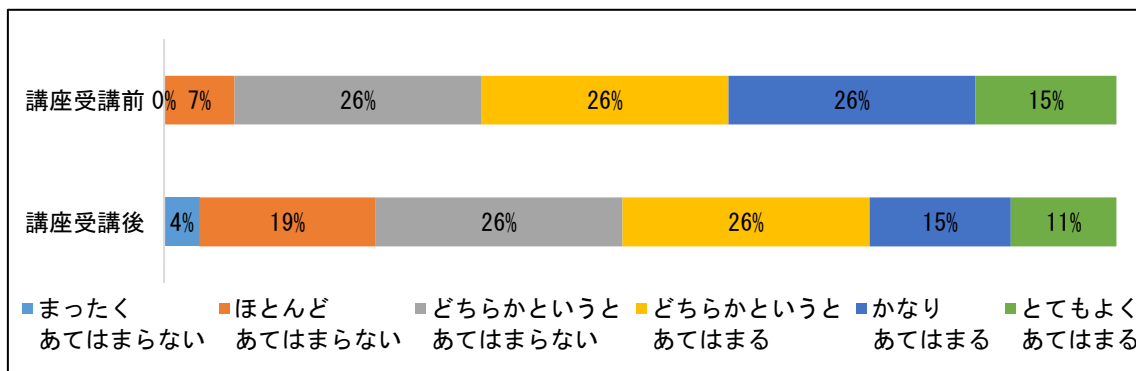
11 普段は災害のことは考えない (n=27)



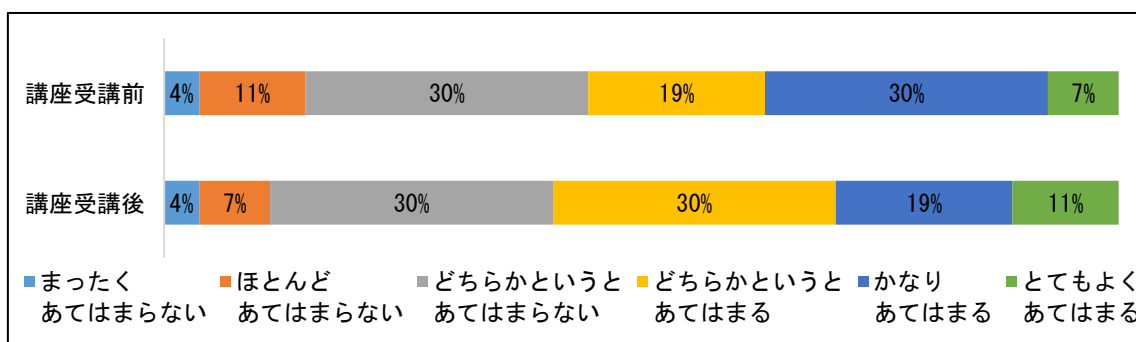
12 災害は明日来てもおかしくない (n=27)



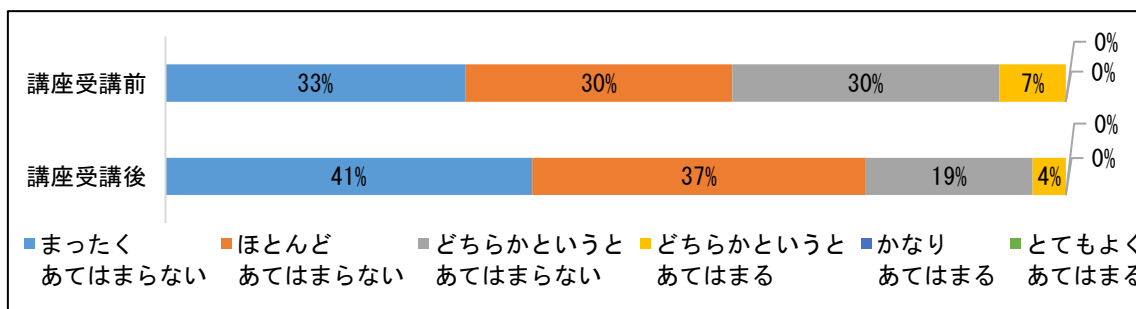
13 個人の努力だけで災害の被害を減らすことは難しいと思う (n=27)



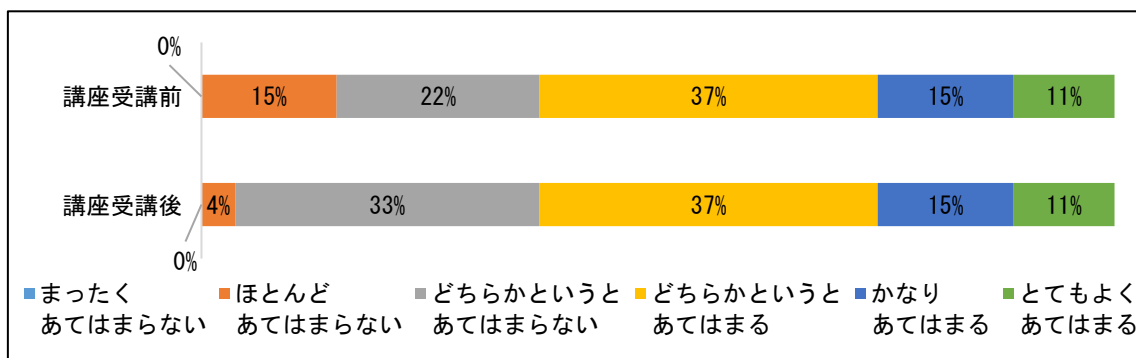
14 身の回りの危険をいつも気にしている (n=27)



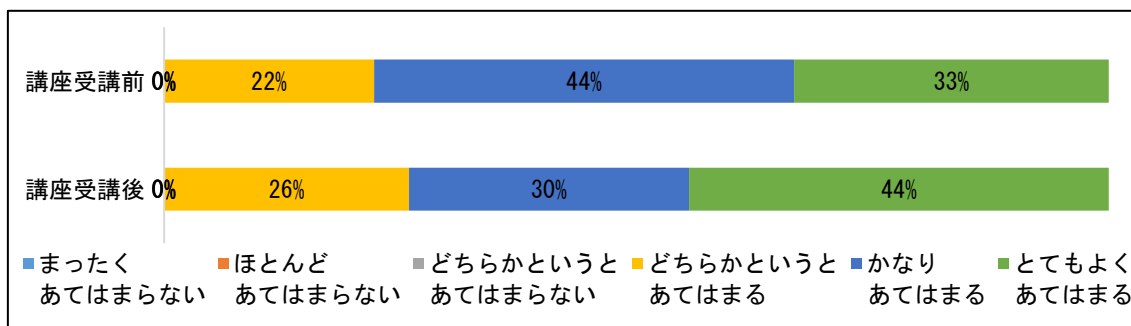
15 防災対策は耐震補強や防波堤の整備など物理的なものだけで十分だと思う (n=27)



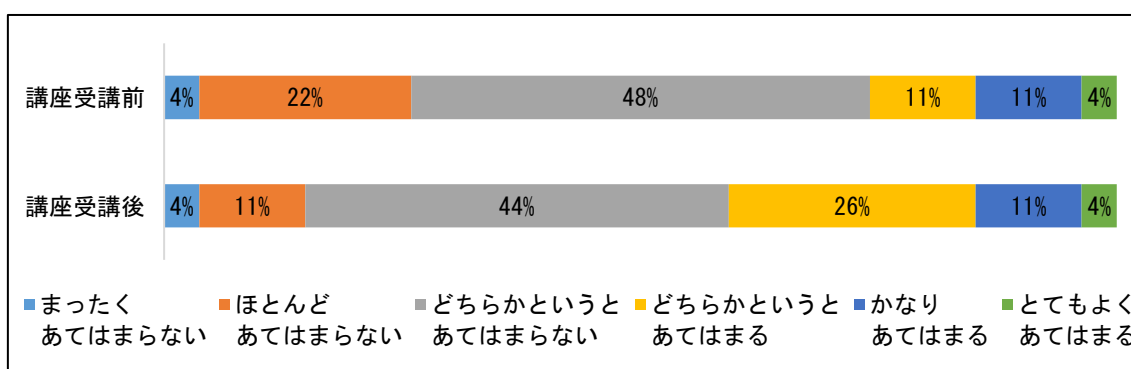
16 人とコミュニケーションをとるのが好きだ (n=27)



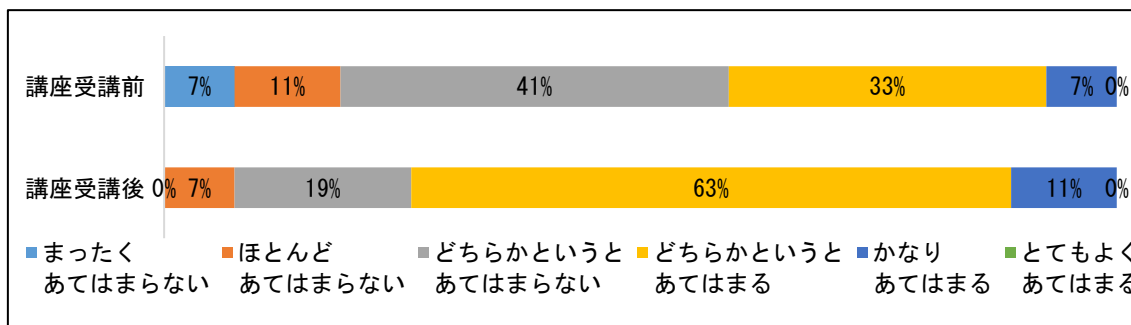
17 防災は自分の地域だけで完結するのではなく他の地域との連携も必要だと思う (n=27)



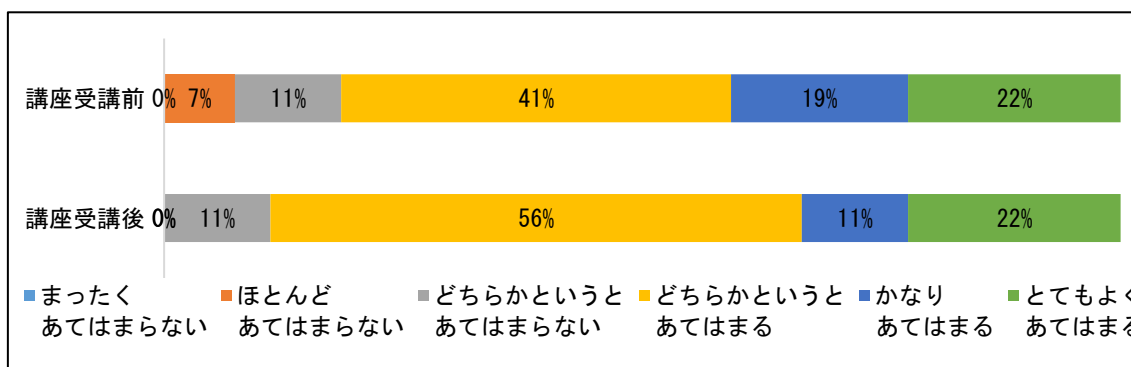
18 人が集まる場所が好きだ (n=27)



19 災害発生時に自分がどのような対策をすればよいか具体的なイメージがある (n=27)



20 他の人のために何かしたいと思う (n=27)



(4) セミナーへの意見、今後の講座など（自由記述）

14名より回答があった（分析対象者以外の視聴者も含む）。

本講座についてのご意見や今後実施してほしい講座など自由にご記入ください。
授援力という言葉が初めてききました。子ども3人がばらばらに被災することだってあるのだと思うと、日頃からの子どもへの防災教育が大切だと思いました。
色々なことを知れて心が楽になりました。今後の生活に活かしていきます。
講座に参加させていただきありがとうございました。紹介された絵本などを使用して、子どもにも災害について少しずつ考えてもらおうと思いました。いつどこで災害が起こるかわからないので、パーソナルカードも利用したいと思います。
今回は、貴重なお話を拝聴でき、とても勉強になりました。大きな災害が起こると、その時はいろいろ準備したり対策を考えたりしましたが、再度考え直す必要があると思いました。非常用の備蓄やバッグの中身をアップデートして、家族でもいろんなケースを想定してどうするのかを改めて確認しておこうと思います。ありがとうございました。
とても貴重なお時間をありがとうございました。授援力という言葉が初めて知りました。私は今3人の子育てをしています。1人目を出産した時子育てのプレッシャーから人に頼ること、相談することができませんでした。今は子どもが増え、そうはいかない状況で頼ること、相談することが自然と身についたと思います。昨夜にあった地震ですが、何があるかわからない状況にすぐ対応できるような対策を十分していきたいと思いました。
先生方のお話、とても参考になりました。励ましてくれるような、背中を押してくれるような、何だか温かくて、ありがたかったです。今後、家族と一緒に受けられるような防災の講座があれば嬉しいなと思います。私がアウトプットが苦手で、せっかく教わった事も伝えられない…という勝手な理由なのですが、今日は本当にありがとうございました！
授援力という言葉が初めて聞いたが、本当に大切な言葉だなと感じた。もっと近所や地域で繋がるのが大切だと思うが、やはり『迷惑かも』とってしまう人の方が多いと思う。頼ってもいいんだと心の根本を変えられるような心理の講座があれば受けてみたいと思う。とても為になる講座を受講できて良かったです。ありがとうございました。
授援力という言葉、印象に残りました。私は自己責任で自分を追い詰めてしまう悪い癖があるので、ドキッとしました。「ちょっと」人に助けてと言えるように、甘えではないよ。と自分に言い聞かせて、自分を少し解放してあげる、自分を大切にしてくれるリラクスの時間を持つことが、相手を頼る事や相手を大事にすることに繋がるということなんだと大切な事を教えていただいた気がします。ズームを初めて自分の生活に取り入れるきっかけにもなりましたし、なんだか気持ちが温くなるような時間でした。今日はありがとうございました。

<p>私は人に相談することが苦手で、ひとりで頑張ってしまうところがあるので、受援力のスコアを伸ばすことが大切だという話が聞いて良かったです。自助が大切だというお話も、防災について改めて考えるきっかけになりました。本日はありがとうございました。今後、実際の避難所生活の様子なども具体的に知れたらと思いました。</p>
<p>避難所での生活や避難所自体の様子がオンラインでリアルに体験できるような講座があるとイメージしやすいなあと思います。(例えば、受付があって、自分の区切られたスペースがどのようなもので作られてて…配給や水はどのように受け取りに行く流れか、など)</p>
<p>具体的な災害準備物や、子供のための防災について学べたので良かったです。ありがとうございました。</p>
<p>自分の防災意識を見直せる事ができ家族との話し合いも大切だと感じました。</p>
<p>準備物チェックの中にティッシュペーパーやトイレトペーパーという欄がなく不思議だった。ある程度準備物はしているが、保険証や母子手帳のコピーをとっておくというのは聞いておいて良かった。自分は人を頼りたくないタイプなので先生がおっしゃっていることはよく解るが、難しいように思う。先生方の子育てに興味がある。また機会があれば聞かせてほしい。</p>
<p>事前アンケートの20分を講演者へ割り振って欲しかった。2時間で講演1時間では不満でした。辛口ですいません。</p>

### 3. まとめ

#### (1) セミナーについて

##### 1-1 開催方法について

乳幼児をもつ保護者を対象に複合災害に関する知識と技術を普及啓発し、防災意識の向上および備えを推進していくため、徳島大学大学院医歯薬研究部地域看護学分野では、令和3年2月2日母子を対象とした複合災害セミナーを開催した。新型コロナウイルス感染症の状況を鑑み、オンラインでの開催とした。感染症が蔓延している状況下における対面での研修は、対象が乳幼児を養育している保護者、妊婦である点でも難しいと考え、オンライン形式でのセミナー開催は適切であったと考える。しかし、セミナー周知の段階で「Zoomを使用したことがないためにセミナーの内容に興味はあっても申込をするかどうか悩んでいる」といった参加をためらう声も聞かれ、ZoomといったWEB会議システムの使用に慣れていない者はZoomへの心理的なハードルが高く、申込を諦めた者もいたと考えられた。今後は、対象者が気軽に参加できるような開催の工夫や案内方法についても検討が必要と考えられた。

また、参加者の中には通信環境不良により講座を十分に視聴できなかつたため講座内容について十分に視聴できなかつたと回答した者がいた。その他、セミナーを事前に申し込んだが都合により当日視聴ができなかつた者もいたことから、講師、参加者に了解を得た上で、後日、申込者全員に当日のセミナー動画視聴用のURLを配布した。それにより、当日に視聴できなかつた場合や、当日参加をしていたとしても全体を通しての視聴ができなかつた場合、さらには、改めてセミナーの内容を振り返りたいという場合であっても、再度繰り返しセミナーの内容を確認することができるため、対応方法としては適切であったと考える。

##### 1-2 募集開始時期、周知方法について

セミナー開催日を研究者ら、セミナー講師らが参加可能である令和3年2月2日（火）午前に設定し、参加者の募集は開催日1か月前の令和3年1月上旬より開始した。当初、子育て支援施設でのメールマガジンや新聞記事、大学ホームページ、FMラジオ、SNSを利用し、参加者の募集を開始したが、募集開始後2週間の時点で、参加申し込みが想定していたよりも少ない状況であった。そのため、周知する対象機関や施設の追加を再検討し、周知先を増やす必要があった。具体的には、セミナー開催の関係者が、知人に対して直接セミナーの案内を行ったほか、つながりのある関係機関（幼稚園や保育所、病院など）へセミナーの周知を依頼した。最終的に70名の申し込みがあったが、当初目標としていた参加者100名には至らなかつた。この結果より、次回セミナーを開催する際には、募集開始の時期を今回より1~2か月前に設定し、関係機関に向けて余裕を持ったセミナー開催の案内をしていく必要があると考える。また、周知方法や周知先については、さらなる検討が必要である。先行研究では、乳幼児を持つ母親がよく利用する育児情報の情報源に

は、インターネット(HP, ブログ, アプリ), 家族や友人からの口コミ, 本・雑誌, 保育園や幼稚園の先生の順に多かったと報告されている<sup>6,7)</sup>。この結果からも, 幼稚園, 保育園は, 対象者が比較的情報を得やすい場所であるといえる。今回, それらの施設については, 研究者がつながりのある施設に直接依頼した形となり, 徳島県内のすべての施設ではセミナーの周知ができていなかったため, セミナー開催の情報が対象者に十分に行き届かなかったと考える。

また, 今回アンケートに回答した者の中で, 妊娠中の者は全体の6%と少ない結果であった。妊婦は災害時に特別な支援を必要とする層であることや, 今後乳幼児を育てていく母親になるという面でも, 複合災害発生時において妊婦・乳幼児に必要とされる災害への備えについての知識普及は, 災害時における妊婦の自助力の強化という視点からも重要である。今回, 研究対象者は, 乳幼児を育てている保護者であり, 直接的には妊婦は対象に含まれていなかったが, 今後は, 妊娠中の女性も多く参加できるように, 産婦人科や助産院などでの周知も積極的に行っていく必要がある。次回は, 徳島県や, 県の教育委員会, 助産師会, 医師会等にも研究協力を依頼し, 県下全ての幼稚園, 保育園への周知, 医療機関での周知を検討し, より多くの必要とする方々に今回の情報が届くようにしたい。また, 今回の対象者が複合災害に関する情報を入手する入手先では, テレビ・ラジオが最も多いという結果が得られており, テレビでのセミナー周知は, 乳幼児を持つ保護者に有効な手段であると考えられる。今後は, 情報周知の方法として, 地元のテレビ番組でのセミナー周知を検討する。

### 1-3 対象者について

対象者として, 徳島県内で乳幼児を養育している保護者と設定し, 対象者の募集を行った。今回の研究は, 県内在住の乳幼児を養育している保護者の防災意識と備え強化を目的としてセミナーを開催したため, 募集対象の設定は適切であったと考える。しかし, 今回のセミナーは, オンラインで開催しており全国どこにいてもインターネットに接続可能な環境があれば, 参加をすることが可能であることが大きな利点である。今回, 対象者を徳島県内と限定したが, 今後は居住地域の限定はせず広く参加者を募集することで, より多くの人々の複合災害に関する知識と技術を普及啓発し, 防災意識の向上および備えを推進していくことに貢献できると考える。

また, セミナー参加者の募集にあたり SNS やインターネット, 口コミ等からも周知をしていったところ, 防災活動に取り組んでいたり, 子育ての応援活動に取り組んでいたりとといった今回のセミナーに関連のある職種の方々から, 「募集の対象外であるが参加は可能か」といった問い合わせがあった。問い合わせのあった参加希望者には, アンケートの対象とせず, セミナーの視聴を許可することで対応をした。今回, 募集条件の中に, 防災に関する支援者の方や専門家, 子育て支援の活動に携わる者を加えていなかったが, 母子の防災力の強化, 複合災害に関する知識普及のためには, そういった活動に取り組む支援

者への働きかけも重要であるため、今後は、希望者が広くセミナーに参加できるよう募集内容を考慮する必要がある。

#### 1-4 開催日時、時間等について

開催日時は、令和3年2月2日（火）10:00～12:00と設定した。時間帯の設定については、子育て支援のイベントや事業が開催されている時間帯を参考にしたが、アンケートに回答した35名の職業をみると、専業主婦・主夫が43%と最多、次いでパート・アルバイトが20%という結果であった。この結果からも平日午前の開催であり、一般的な会社勤めをしている子育て中の保護者は参加しにくい日時設定であったと考える。また、参加者の中には幼稚園に子どもを預けている者がいたが、申し込みの時点で研究者に「参加にあたり12時前に子どもの幼稚園の迎えに行くため途中退席を許可してほしい」と相談があった。このことから、今後、今回と同様に、乳幼児を育てている保護者を対象とするセミナーを設定する場合には、開催日時については、対象の方が参加しやすい曜日や時間を考慮する必要がある。しかし、どの時間帯であっても参加が難しい者はいると考えられるため、今回、セミナー後に動画配信し、より多くの人に共有できたことはよかったと考える。

また、セミナーの参加者より「事前アンケートの20分を講演者へ割り振って欲しかった。2時間で講演1時間では不満でした。」という意見があった。募集の段階で、案内チラシや参加受付時の返信メールには講演の時間配分や、事前・事後アンケートの入力のために設定している時間が具体的に記載できておらず、参加者に不十分な案内であったと考える。アンケート入力、講演時間の適切な時間配分についても再度検討を重ね、参加者が満足いくセミナー運営を目指していきたい。

#### 1-5 セミナーの内容について

セミナーの内容について、「受援力という言葉は初めて聞いたが、本当に大切な言葉だなと感じた。もっと近所や地域で繋がるのが大切だと思うが、やはり『迷惑かも』とってしまう人の方が多いと思う。頼ってもいいんだと心の根本を変えられるような心理の講座があれば受けてみたいと思う。とても為になる講座を受講できて良かった」「具体的な災害準備物や、子供のための防災について学べたのでよかった」などの意見があり、今回のセミナーの内容を自分事として捉え受け止めることができたほか、自らの防災対策について今一度振り返る機会となったと考えられる。その背景として、今回のセミナーでは、講師自身も乳幼児を養育している保護者であったため、複合災害への備えについてより参加者に身近に感じるものとなり、今後活かせる内容になったのではないかと考える。

また、講師の一人である瀬戸恵深さんは「ママ防災士」としての活動をしており、今回のセミナーでは、その内容に「防災士」の資格や活動内容についての紹介を取り入れている。「防災士」の資格や活動内容についての普及啓発にもなったことは、本研究の目的の



一つである参加者の自助・共助力の向上にも一定の効果が得られたのではないかと思われた。

さらに、セミナーの参加者より、「避難所での生活や避難所自体の様子がオンラインでリアルに体験できるような講座」を希望する意見があった。オンラインであっても、参加者が体験型で楽しく複合災害について学ことができる講座が開催できるよう、今後開催方法やセミナー内容についても検討していきたい。

## (2) アンケート分析結果について

複合災害について参加者の約半数である49%の者が今回初めて聞いたと回答し、「知らない」「あまり知らない」と答えた者は全体の92%と、複合災害についての知識普及が十分でない現状が明らかとなった。このことから、新型コロナウイルス感染症影響下において、子育て世代の防災力強化のためには、複合災害に関する知識の普及、複合災害を想定した防災教育の充実が課題であると思われた。知識の普及啓発については、今回のようなオンラインによるセミナー形式だけでなく、対象者が情報を得やすいテレビ・ラジオ、インターネットなどの媒体を活用する方法も効果的と考える。

乳幼児をもつ保護者の複合災害に対する防災意識について、セミナー受講後に、「自分の利益にならないことはやりたくない」の項目で、「ほとんどあてはまらない」「まったくあてはまらない」が増加し、セミナー受講後に防災に関する他者への志向性の上昇が高まっていると考えられる。こちらは受援力の大切さについての講演や、防災士の活動の紹介などの講演内容を通して、防災には、自分だけではなく地域との関わりが重要であることを再認識したことなどが関係すると考えられた。

また、複合災害に対する備えについては、ほぼすべての項目で、講座の受講後に「新たに準備しようと考えている」と答えていた。また、防災意識を問う質問項目では、「災害発生時に必要となる物資の具体的なイメージがある」、「災害発生時に町がどうなるかの具体的なイメージがある」、「災害発生時に自分がどのような対策をすればよいか具体的なイメージがある」の3項目で、講座受講後に、「どちらかというにあてはまる」が増加しており、セミナー受講によって、震災時の様子を示す写真を見たことや、具体的に備えるべき準備物品を学んだことで、被災状況や対策に対する想像力が上昇し、対象者の備え強化につながったと考えられた。

今回の調査では、セミナー開催直後の時点における参加者の防災意識の変化のみを明らかとしており、実際の行動面での変化や、長期的な意味でのセミナーの効果の検証はできていない。今後は継続的なフォローアップによる長期的な効果の検証と、母子における防災力の強化に対する寄与について評価を行う必要がある。

なお、本調査は、徳島大学環境防災研究センター「令和2年度防災特別研究プロジェクト」の助成を受けて実施した（本プロジェクト予算は、環境防災研究センターにおける防

災関係受託事業である，(株)一条工務店・学術指導経費及び徳島県地域防災人材育成事業によるもの).

## 謝辞

最後に，ご講演いただきました講師の皆様ならびに子育て中のお忙しいなか，セミナーにご参加いただいた皆様，アンケート調査にご協力いただきました皆様に，この場をお借りして厚く御礼申し上げます．今後は，アンケート調査結果や参加の皆様からいただいた意見を参考とし，セミナーのテーマの選定や，周知方法などを工夫し，幅広い層に参加を呼びかけることで，次回開催に活かしていきたいと考えております．また，今回のセミナー開催にあたり，参加者を募っていただいた関係機関，子育て支援施設の皆様方には，年度末のお忙しいなか，多大なご協力をいただきありがとうございました．

本研究結果を，今後の子育て支援，地域防災活動に活用させていただきます．

## 文献

- 1) 内閣府 防災教育チャレンジプラン実行委員会：地域における防災教育の実践に関する手引き，2015.
- 2) 東京都福祉保健局少子社会対策部家庭支援課：妊産婦・乳幼児を守る災害対策ガイドライン，2014.
- 3) 徳島県：防災ノート～赤ちゃんとママを守るために～，徳島県周産期 共通診療ノート，2018.
- 4) Ozeki, M., Shimazaki, K. & Yi, T., Exploring elements of Anti-disaster Consciousness: Based on Interviews with Anti-disaster Professionals, *Journal of Disaster Research*, 12(3), 631-638, 2017.
- 5) 島崎敢・尾関美喜：防災意識尺度の作成（1），日本心理学会第81回大会発表論文集，69，2017.
- 6) 多田美由貴，乳幼児を持つ母親の育児に関するヘルスリテラシーの実態調査，生協総研賞・第13回助成事業研究論文集，49，2017.
- 7) 岡久玲子，森健治，岩本里織，谷洋江，松下恭子，多田美由貴：厚生労働省 平成26年度児童福祉問題調査研究事業 レジリエンス概念による育児支援確立のための育児支援ニーズ及び支援状況に関する調査研究報告書，2015.

[https://www.tokushima-u.ac.jp/med/research/achievement/h26\\_jidoufukusi.html](https://www.tokushima-u.ac.jp/med/research/achievement/h26_jidoufukusi.html)

# 資料

## 資料 1 (事前アンケート)

### 事前アンケート

SA Q1 本調査は皆様の複合災害に対する防災意識と備えについてお伺いするものです。  
調査に同意いただけますでしょうか。

- 1 同意する
- 2 同意しない →対象外

SA Q2 あなたの性別をお知らせください。

- 1 男性
- 2 女性

FA Q3 あなたの年齢をお知らせください。

( ) 歳

※全年齢対象。

SA Q4 あなたの職業をお知らせください。

※産休・育休中の方もご記入ください

- 1 会社勤務 (一般社員)
- 2 会社勤務 (管理職)
- 3 会社経営 (経営者・役員)
- 4 公務員・教職員・非営利団体職員
- 5 派遣社員・契約社員
- 6 自営業 (商工サービス)
- 7 SOHO (パソコンなどの情報通信機器を駆使して、自宅や小さなオフィスなどで仕事をする事業者)
- 8 農林漁業
- 9 専門職 (弁護士・税理士等・医療関連)
- 10 パート・アルバイト
- 11 専業主婦・主夫
- 12 学生
- 13 無職
- 14 その他 ( )

SA Q5 あなたの最終学歴をお知らせください。

- 1 中学校卒

- 2 高校卒
- 3 専門学校・短大卒
- 4 大学卒
- 5 その他 ( )

MA Q6 同居されている方をお知らせください。

- 1 パートナー
- 2 子ども
- 3 実父
- 4 実母
- 5 義父
- 6 義母
- 7 兄弟・姉妹
- 8 その他 ( )

FA Q7 パートナーの年齢をお知らせください。

( ) 歳

FA Q8 お子様の人数をお知らせください。

( ) 人

SA Q9 お子様の性別をお知らせください。

		第 1 子	第 2 子	第 3 子	第 4 子	第 5 子
1	男の子	1	1	1	1	1
2	女の子	2	2	2	2	2

FA Q10 お子様の年齢を〇歳〇ヶ月のようにお知らせください。

		第 1 子	第 2 子	第 3 子	第 4 子	第 5 子
1	年齢					

SA Q11 現在、妊娠していますか。

- 1 はい
- 2 いいえ

FA Q12 徳島県での居住年数をお知らせください。

( ) 年

SA Q13 以下の質問の経験についてお知らせください。

※身近な人とは、家族・友人・近所の人を指します。

		あ る	な い
1	過去に大きな災害（例：地震、雪害、大雨）を経験し被害を受けた経験	1	2
2	身近な人が、過去に大きな災害（例：地震、雪害、大雨など）を経験し、被害を受けた経験	1	2
3	日頃から身近な人と災害を話題とした会話（SNS などの交流を含む）をすることはありますか	1	2
4	災害に関する地域活動（例：防災フェスタ、防災訓練など）に参加した経験	1	2

SA Q14 あなたはこれまで複合災害について聞いたことはありますか。

- 1 ある
- 2 今回初めて聞いた

SA Q15 複合災害についてどこで聞きましたか。

- 1 インターネット（災害に関するホームページ）
- 2 インターネット（SNS）
- 3 インターネット（その他）
- 4 テレビ・ラジオ
- 5 チラシ・ポスター
- 6 新聞・広報紙
- 7 本・雑誌
- 8 医療機関
- 9 自治体
- 10 保育所や幼稚園の先生
- 11 家族や友人
- 12 その他（ ）

SA Q16 あなたは複合災害についてどの程度の知識がありますか。

- 1 よく知っている
- 2 知っている
- 3 あまり知らない
- 4 知らない

SA Q17 以下の文章はあなた自身の考えにどのくらい当てはまりますか。

	まったくあてはまらない	ほとんどあてはまらない	どちらかというとあてはまらない	どちらかというとあてはまる	かなりあてはまる	とてもよくあてはまる	
1	災害発生時に人々がどのような行動を取るか具体的なイメージがある	1	2	3	4	5	6
2	自分の利益にならないことはやりたくない	1	2	3	4	5	6
3	災害発生時に必要となる物資の具体的なイメージがある	1	2	3	4	5	6
4	色々な友達をたくさんつくりたい	1	2	3	4	5	6
5	災害発生時に町がどうなるかの具体的なイメージがある	1	2	3	4	5	6
6	ひとたび災害が起きれば大変なことになると思う	1	2	3	4	5	6
7	自分は心配性だと思う	1	2	3	4	5	6
8	不安を感じることが多い	1	2	3	4	5	6
9	自分の身近なところで起きそうなことだけ考える	1	2	3	4	5	6
10	災害のことを考え始めると、様々なパターンの被害を妄想してしまう	1	2	3	4	5	6
11	普段は災害のことは考えない	1	2	3	4	5	6
12	災害は明日来てもおかしくない	1	2	3	4	5	6
13	個人の努力だけで災害の被害を減らすことは難しいと思う	1	2	3	4	5	6
14	身の回りの危険をいつも気にしている	1	2	3	4	5	6
15	防災対策は耐震補強や防波堤の整備など物理的なものだけで十分だと思う	1	2	3	4	5	6
16	人とコミュニケーションをとるのが好きだ	1	2	3	4	5	6
17	防災は自分の地域だけで完結するのではなく他の地域との連携も必要だと思う	1	2	3	4	5	6
18	人が集まる場所が好きだ	1	2	3	4	5	6
19	災害発生時に自分がどのような対策をすればよいか具体的なイメージがある	1	2	3	4	5	6
20	他の人のために何かしたいと思う	1	2	3	4	5	6

SA Q18 現在、あなたが行っている災害への備えについて、持ち出せる準備をしているもの・準備をしていないものをお知らせください。



		持ち出せる準備をしている	準備をしていない
貴重品			
1	現金	1	2
2	預金通帳	1	2
3	印鑑	1	2
4	健康保険証	1	2
非常食・飲料水			
5	食料品	1	2
6	飲料水	1	2
医療品			
7	常備薬	1	2
8	お薬手帳	1	2
9	絆創膏	1	2
生活用品			
10	ヘルメット	1	2
11	ホイッスル	1	2
12	携帯トイレ	1	2
13	懐中電灯	1	2
14	乾電池	1	2
15	ウェットティッシュ	1	2
16	手指消毒薬	1	2
17	筆記用具	1	2
18	ビニール袋	1	2
19	ラップ	1	2
20	雨具	1	2
21	軍手	1	2
22	マスク	1	2
23	タオル	1	2
その他			
24	ラジオ	1	2
25	携帯電話	1	2

26	充電器	1	2
27	身体を保温できるもの（おくるみ、カイロ、保温シートなど）	1	2
乳幼児に必要なもの			
28	粉ミルク	1	2
29	ミルク用飲料水	1	2
30	哺乳瓶	1	2
31	離乳食	1	2
32	おやつ	1	2
33	スプーン	1	2
34	抱っこ紐	1	2
35	大判スカーフ	1	2
36	紙おむつ	1	2
37	おしりふき	1	2
38	おもちゃ	1	2
39	子ども用の薬	1	2
40	乳幼児医療受給者証	1	2
妊産婦の方			
41	母子健康手帳	1	2
42	共通診療ノート	1	2
43	生理用品	1	2
44	清浄綿	1	2
45	分娩準備品	1	2
46	新生児用品	1	2

アンケートは以上です。ご協力大変ありがとうございました。

資料 2 (事後アンケート)

事後アンケート

SA Q1 本調査は皆様の複合災害に対する防災意識と備えについてお伺いするものです。

調査に同意いただけますでしょうか。

- 1 同意する
- 2 同意しない →対象外

SA Q2 今回、どの講座を受講されましたか。

- 1 1 回目「乳幼児をもつご家庭が複合災害に遭ったらーその時に役立つ受援力とは？」のみ
- 2 2 回目「おやこで防災スイッチ ON！ ママ防災士と一緒に考えよう！」のみ
- 3 すべて受講した

SA Q3 講座を受講されて複合災害とその備えについて理解できましたか。

- 1 よく理解できた
- 2 理解できた
- 3 あまり理解できなかった
- 4 理解できなかった

SA Q4 あまり理解できなかった、理解できなかった理由をお知らせください。

- 1 講座の内容が難しかった
- 2 自分の状況とかけ離れすぎてピンとこなかった
- 3 理由はわからない
- 4 その他 ( )

SA Q5 講座受講後、新たに準備しようと考えている災害への備えについてお知らせください。

	講座受講前より準備している	新たに準備しようと考えている	準備しようと考えていない
貴重品			
1 現金	1	2	3
2 預金通帳	1	2	3
3 印鑑	1	2	3

4	健康保険証	1	2	3
非常食・飲料水				
5	食料品	1	2	3
6	飲料水	1	2	3
医療品				
7	常備薬	1	2	3
8	お薬手帳	1	2	3
9	絆創膏	1	2	3
生活用品				
10	ヘルメット	1	2	3
11	ホイッスル	1	2	3
12	携帯トイレ	1	2	3
13	懐中電灯	1	2	3
14	乾電池	1	2	3
15	ウエットティッシュ	1	2	3
16	手指消毒薬	1	2	3
17	筆記用具	1	2	3
18	ビニール袋	1	2	3
19	ラップ	1	2	3
20	雨具	1	2	3
21	軍手	1	2	3
22	マスク	1	2	3
23	タオル	1	2	3
その他				
24	ラジオ	1	2	3
25	携帯電話	1	2	3
26	充電器	1	2	3
27	身体を保温できるもの（おくるみ、カイロ、保温シートなど）	1	2	3
乳幼児に必要なもの				
28	粉ミルク	1	2	3
29	ミルク用飲料水	1	2	3
30	哺乳瓶	1	2	3
31	離乳食	1	2	3
32	おやつ	1	2	3
33	スプーン	1	2	3

34	抱っこ紐	1	2	3
35	大判スカーフ	1	2	3
36	紙おむつ	1	2	3
37	おしりふき	1	2	3
38	おもちゃ	1	2	3
39	子ども用の薬	1	2	3
40	乳幼児医療受給者証	1	2	3
妊産婦の方				
41	母子健康手帳	1	2	3
42	共通診療ノート	1	2	3
43	生理用品	1	2	3
44	清浄綿	1	2	3
45	分娩準備品	1	2	3
46	新生児用品	1	2	3

SA Q6 以下の文章はあなた自身の考えにどのくらい当てはまりますか。

	まったくあてはまらない	ほとんどあてはまらない	どちらかというにあてはまらない	どちらかというにあてはまる	かなりあてはまる	とてもよくあてはまる	
1	災害発生時に人々がどのような行動を取るか具体的なイメージがある	1	2	3	4	5	6
2	自分の利益にならないことはやりたくない	1	2	3	4	5	6
3	災害発生時に必要となる物資の具体的なイメージがある	1	2	3	4	5	6
4	色々な友達をたくさんつくりたい	1	2	3	4	5	6
5	災害発生時に町がどうなるかの具体的なイメージがある	1	2	3	4	5	6
6	ひとたび災害が起きれば大変なことになると思う	1	2	3	4	5	6
7	自分は心配性だと思う	1	2	3	4	5	6
8	不安を感じることが多い	1	2	3	4	5	6
9	自分の身近なところで起きそうなことだけ考える	1	2	3	4	5	6
10	災害のことを考え始めると、様々なパターンの被害を妄想してしまう	1	2	3	4	5	6
11	普段は災害のことは考えない	1	2	3	4	5	6
12	災害は明日来てもおかしくない	1	2	3	4	5	6

13	個人の努力だけで災害の被害を減らすことは難しいと思う	1	2	3	4	5	6
14	身の回りの危険をいつも気にしている	1	2	3	4	5	6
15	防災対策は耐震補強や防波堤の整備など物理的なもので十分だと思う	1	2	3	4	5	6
16	人とコミュニケーションをとるのが好きだ	1	2	3	4	5	6
17	防災は自分の地域だけで完結するのではなく他の地域との連携も必要だと思う	1	2	3	4	5	6
18	人が集まる場所が好きだ	1	2	3	4	5	6
19	災害発生時に自分がどのような対策をすればよいか具体的なイメージがある	1	2	3	4	5	6
20	他の人のために何かしたいと思う	1	2	3	4	5	6

FA Q7 本講座についてのご意見や今後実施してほしい講座など自由にご記入ください。

( )

アンケートは以上です。ご協力大変ありがとうございました。

# 研究の説明文書

## 課題名 「乳幼児をもつ保護者の複合災害に対する 防災意識と備えに関する研究」について

### 1. 本研究の意義、目的

日本は、地震大国であり、季節を問わず各地で毎年のように地震や津波、噴火などの災害に見舞われ、私たち日本人は、そういった災害とともに暮らしてきました。地震はいつ起こるかわからないため、日頃から地震に対する備えをしておくことはとても大切です。また、昨年から流行をはじめた新型コロナウイルス感染症の影響により、世界はWith コロナの時代に突入し、私たちは新しい生活様式への対応を求められています。そのような時代の中で、今後近い将来、大規模な災害が発生した場合に、避難所においてクラスター（集団感染）が発生し、爆発的な感染拡大が起こるといった二次的な被害、いわゆる「複合災害」の発生も懸念されており、「複合災害への備え」は、防災における新たな課題となっています。

2011年に発生した東日本大震災では、行政が全ての被災者を迅速に支援することが難しいこと、行政自身が被災して機能が麻痺するような場合があることが明確になり（「公助の限界」）、災害時には、「自助（自分自身の身の安全を守ること）」・「共助（地域やコミュニティといった周囲の人たちが協力して助け合うこと）」による力を効果的に活かすことが重要であると再認識され、これをきっかけに「自助」、「共助」の力を向上させる取り組みとしての防災教育への関心が高まってきました。

妊娠中や産後の女性や乳幼児は、災害時に特別な支援が必要とされる層です。上述したような東日本大震災での教訓を受け、今では日本各地で、災害時の母子を守るための防災対策事業が行われています。母子を対象とした防災対策は、災害時の母子の安心や安全を確保するだけでなく、平時からの“ともに助け合うまちづくり”の実現にもつながり、自助・共助の向上の効果が期待できます。

以上より、母子への「複合災害への備え」に関する防災教育の充実は意義があると考えます。母子への防災教育として、乳幼児健診等で防災に関するパンフレットの配布はされているものの、「複合災害への備え」を含めた防災教育は、十分とは言えません。

そこで、本研究では、乳幼児をもつ保護者の方に複合災害に関するセミナーを受講していただくことで、複合災害に対する知識と技術の普及啓発を行い、防災意識の向上や災害への備えを推進することを目的としています。

研究の趣旨をご理解いただき、ご協力くださいますようお願い申し上げます。

## 2. 研究対象者として選定された理由、参加予定の本研究の対象と本学の対象例数

本研究は、徳島県内で、乳幼児を育てていらっしゃる保護者の方を対象としています。研究の参加者は100人を予定しています。

## 3. 研究方法

研究方法は、最初に参加者の方に、1) Web アンケートを用いた事前調査を受けていただきます。アンケートの内容は、複合災害に関する知識や、防災意識、現在の災害への備えに関する項目についてなどがあります。その後、2) 複合災害に関するセミナーを受講していただきます。なお、セミナーは、Web 会議サービス『Zoom』を用いたオンラインでの開催となります。セミナーの内容は、「複合災害について」や、「複合災害への備え・対策について」とし、母子に関連のある内容で行います。セミナー受講後に、3) 理解度の確認等のため、Web での事後アンケートにお答えいただきます。Web によるアンケートとセミナー受講は、ご自宅で実施していただきます。

アンケートの回答に要する時間は、事前調査、事後調査ともに10分程度です。セミナーの開催回数は1回で、2人の講師によるセミナーを受講していただきます(各30分間)。

研究全体の期間は、徳島大学病院医学系研究倫理審査委員会承認日～2023年3月31日です。

## 4. 情報・データ等の保存及び使用方法並びに保存期間

収集した情報・データは、地域看護学分野研究室内の施錠できる場所に保管し、研究の中止または終了の3年後にシュレッダーにて破棄します。本研究で得られた情報・データは本研究以外には使用しません。

## 5. 本研究の倫理的配慮

今回の研究の実施にあたっては、徳島大学病院医学系研究倫理審査委員会の審査を経て、研究機関の長より許可を受けています。この研究に参加されるかどうかはあなたの自由な意思で決めて下さい。また、いったん同意した後でもいつでも撤回できます。どちらの場合もあなたの不利益になることは全くありません。また、ご本人等からの求めに応じて、被験者の個人情報保護や本研究の独創性の確保に支障がない範囲内で本研究計画及び本研究の方法に関する資料を入手または閲覧できます。希望される方は連絡先までご連絡下さい。

## 6. 本研究に参加することによって生じる負担並びに予測されるリスク及び利益

本研究によって、心理的な負担など何らかの健康被害が生じる可能性は低いと考えますが、セミナーを受講している際に、災害に関連した映像や内容を見たり内容を聴くことで、



ご気分が悪くなるなど何らかの健康被害が生じる可能性もあります。もし、体調が悪くなった場合は直ちに視聴を終了して下さって構いません。

## 7. 個人情報の取扱い

アンケートは個人が特定されないように無記名でご記入いただきます。また、今回のアンケートに記載いただいた個人情報を第三者に提供する事はございません。また、セミナーは、参加している方のお顔や声がセミナーの主催側にも他の参加者の方にもわからないようにビデオとマイクをオフにしてご参加いただきます。画面上のお名前の表示も、任意の名前に変更して参加することができます。

セミナーの申し込みにあたっては、研究参加者の匿名性の保護のため、氏名を問わずニックネームをお聞きします。また、オンラインセミナー（Zoom）への参加と Web アンケート入力用の URL 等を送付するために、研究の参加者のメールアドレスをお聞きしますが、収集したメールアドレスはそれ以外の目的には使用しません。

## 8. 公表について

本研究の成果が公表される場合でも、個人が特定されることはありません。

## 9. 研究対象者の費用負担の有無に関する事、謝礼について

本研究に参加することによる費用負担はありません。また謝礼もありません。

## 10. 本研究に係る資金源、起こり得る利害の衝突及び研究者等の関連組織との関わり

本研究は、徳島大学環境防災研究センター「令和2年度防災特別研究プロジェクト」の助成を受け実施されます（本プロジェクト予算は、環境防災研究センターにおける防災関係受託事業である、(株)一条工務店・学術指導経費及び徳島県地域防災人材育成事業によるもの）。本研究の利害関係については、臨床研究利益相反審査委員会の審査を受け、承認を得ております。

## 11. 本研究責任者及び研究者の氏名、職名並びに連絡先

<研究責任者>

岡久 玲子（徳島大学大学院 医歯薬学研究部 地域看護学分野・教授）

連絡先）〒770-8509 徳島市蔵本町3丁目18-15

TEL：088-633-9977 e-mail：reiko.okahisa@tokushima-u.ac.jp

<研究者>

松下 恭子（徳島大学大学院 医歯薬学研究部 地域看護学分野・准教授）

連絡先) 〒770-8509 徳島市蔵本町3丁目18-15

TEL : 088-633-9037 e-mail : ymatsushita@tokushima-u.ac.jp

多田 美由貴 (徳島大学大学院 医歯薬学研究部 地域看護学分野・助教)

連絡先) 〒770-8509 徳島市蔵本町3丁目18-15

TEL : 088-633-9033 e-mail : tada.miyuki@tokushima-u.ac.jp

中野 沙織 (徳島大学大学院 医歯薬学研究部 地域看護学分野・助教)

連絡先) 〒770-8509 徳島市蔵本町3丁目18-15

TEL : 088-633-9033 e-mail : nakano.saori@tokushima-u.ac.jp



令和2年度防災特別研究プロジェクト  
主催 徳島大学大学院医歯薬学研究部  
地域看護学分野  
共催 徳島大学環境防災研究センター

**参加費 無料!**

## コロナと地震、複合災害から 子どもと家族の命をまもるために

**日時** 2021年2月2日(火) 10:00~12:00 オンライン(zoom)開催

**参加対象** 乳幼児を育てていらっしゃる保護者の方々

**プログラム**  
セミナーの開催にあたり、  
セミナー前後に  
アンケートへのご協力  
をお願いいたします。

**定員: 100名**  
※先着お申込順



神奈川県立保健福祉大学  
ヘルスイノベーション研究科 教授  
吉田 穂波 先生  
「乳幼児をもつご家庭が複合災害に遭ったら  
—その時に役立つ受援力とは?」



エフエムびざん ディレクター・パーソナリティ  
ラジオとくしま防災委員会 事務局長、ママ防災士  
瀬戸 恵深 先生  
「おやこで防災スイッチON!  
ママ防災士と一緒に考えよう!」

 **お申込はこちら**

※当日視聴される端末の  
メールアドレス、ニックネームをご入力ください

**お問い合わせ先**  
徳島大学大学院医歯薬学研究部 保健学域保健科学部門/地域看護学分野 (中野)  
Tel: 088-633-9033 Mail: nakano.saori@tokushima-u.ac.jp